

小学校における 景観まちづくり学習実践事例集

No.	学校名・学年	実施/参照プログラム
01	岡山県 岡山市立福浜小学校3年	No.01 ひそんでいるぞ！カオ・かお・顔
02	山形県 金山町立金山小学校3年	No.02 これはどこだ？探してみようまちパーツ
03	三重県 紀北町立西小学校5年	No.03 よくよく見れば、あの場所に
04	新潟県 妙高市立斐太南小学校3年	No.04 まちの色・いろいろ
05	茨城県 桜川市立羽黒小学校3年	No.05 地域カルタをつくろう
06	千葉県 市川市立宮田小学校6年	No.05 地域カルタをつくろう
07	宮崎県 日向市立富高小学校6年	No.05 地域カルタをつくろう
08	茨城県 桜川市立羽黒小学校4年	No.06 堀もまちの景観の一部
09	宮崎県 日南市立油津小学校6年	No.07 看板からまちの風景を考える
10	東京都 世田谷区立桜丘小学校3年	No.08 わたしたちのまちに言葉の贈りもの
11	愛知県 豊田市立童子山小学校3年	No.08 わたしたちのまちに言葉の贈りもの
12	宮崎県 日南市立油津小学校5年	No.08 わたしたちのまちに言葉の贈りもの
13	宮崎県 宮崎市立赤江小学校6年	No.08 わたしたちのまちに言葉の贈りもの
14	茨城県 行方市立羽生小学校6年	No.09 思い出いっぱいわたしたちのみち
15	茨城県 桜川市立羽黒小学校5年	No.10 校歌の風景を見つめてみよう
16	香川県 香川大学教育学部附属高松小学校4年	No.11 地域景観プランナーになろう
17	福島県 いわき市立中央台東小学校6年	No.11 地域景観プランナーになろう
18	茨城県 桜川市立羽黒小学校6年	No.11 地域景観プランナーになろう
19	愛知県 小坂井町立小坂井西小学校3年	No.01 ひそんでいるぞ！カオ・かお・顔 No.02 これはどこだ？探してみようまちパーツ No.03 よくよく見れば、あの場所に
20	長野県 長野市立後町小学校3年	No.02 これはどこだ？探してみようまちパーツ No.07 看板からまちの風景を考える No.08 わたしたちのまちに言葉の贈りもの
21	愛知県 碧南市立大浜小学校6年	No.06 堀もまちの景観の一部 No.09 思い出いっぱいわたしたちのみち
22	北海道 北海道教育大学附属函館小学校5年	No.05 地域カルタをつくろう No.10 校歌の風景を見つめてみよう No.11 地域景観プランナーになろう

1

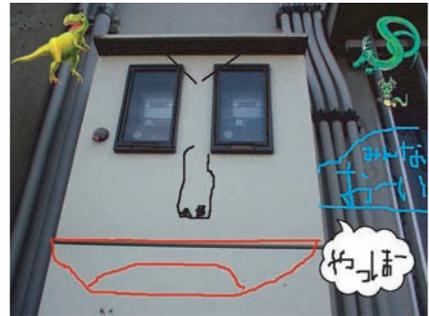
岡山県 岡山市立福浜小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 35人(1学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 6時間

実施 / 参照
プログラム

No. 01

ひそんでいるぞ! カオ・かお・顔



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 身近な景観の中から、「顔」に見立てられる風景や建物を発見し、身近な景観に関心を持ち、そのおもしろさを味わうことができる。

学習活動

1. 見立て遊びをしながら、校内にあるものを顔に見立てる楽しさを味わう。
2. グループ別に学区内を回り、景観の中から「顔」を見つけ、写真に撮る。
3. グループ毎に撮影した「顔」を見せ合い、楽しむ。
4. 撮影してきた写真の中から、「おもしろい顔チャンピオン」を決める。

準備品

- TV
- パソコン
- プロジェクター

実施場所

- 教室
- 校内
- 学区内地域

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●導入として、「顔」に見えるものを準備し、それを見せることで、もの見方でいろいろ見えることを気付かせる。 ●6 グループに分かれ、学校内にある「顔」をさがし、デジカメで撮影。 ●撮ってきた写真をテレビに映し、班長が説明。「顔」と分かるものには拍手で示し、共通意識で判断する。 ●まとめとして、いろいろ見えるということを伝え、次回の予告（地域へ出ること）を行う。 	  	<p>○いろいろなものを注意深く見、発見する楽しみを覚えている。</p>
2 時間	福浜小学校区	<ul style="list-style-type: none"> ●前回行った校内の「顔」探しを、6 班が 3 つのコースに分かれて、地域内で探す。各コースに教員がつき、地域の方にも出席してもらい、安全面の確保に努める。 ●教室に戻って、どんなものを見つけたか、班ごとにテレビに映し、班長が発表。 ●前回同様「顔」と分かるものには拍手する。 ●いろいろ見つめられたことに対し、見る目の重要性を伝えるとともに、次回はパソコンを使うことを予告。 	  	<p>○最初は・・・という感じの児童もなれてくると「これ」という発言も出てきて、楽しそうに一生懸命に探そうとしている。</p>

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	パソコン ルーム	<ul style="list-style-type: none"> ●パソコンを使ってお絵かきソフトの操作方法を教える。 ●実際にお絵かきソフトを使って、自分たちが撮った写真のなかで、顔を描きたいものを選び、絵を描いていく。 		○はじめてのパソコン操作であるが、しっかり使いこなしている児童も多い。スタンプを押していくなど、熱中している。
1 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●「選手権」を行うことを伝え、シートを配布。面白い絵とは何かをまとめる。 ●生活班に分かれ、各班内で、前回描いた絵について、各人が紹介し、各班の代表作品を選ぶ。 ●各班の代表作品について、作者が説明する。 ●シートに点数・コメントを各自記入。 ●次の自主学習の時間の前半を使って、シート右側の感想欄に今回の授業について感想を各自記入。 	  	○班別討議で、自分の作品を推薦し、なかなか決まらない。冷静に班代表が決められない班も若干あった。つまり、けんかではないが、自己主張が強く、協力して班の統一見解が出せないところがあった。

児童の作品

◎見つけた‘カオ’の写真をパソコンでデザインしました



先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 導入時の教材として、他の教科にあるものや地域で事前に撮ったものなどを活用した。
- IT機器を確保し、導入した。
- 地域学習に際してルートの検討を行い、事前にこういったものがあるか調査し、最適と思われるルートを設定した。地域学習では安全の確保を第一に、保護者の協力参加を依頼し、複数の教員（1コース1人）の確保を行った。
- 最初はこんなものも顔に見えるのではないかと投げかけを行い、軌道に乗ったら、子どもたちの自主性に任せるように誘導した。
- 最終の授業発表の展開として、どう発表させるかで苦労した。実際には、予選して各班代表を選び決戦にした。つまり、子供の集中力を持たせる工夫をした。
- パソコンを使って授業をするのが初めてだったので、各人の作業について、保存をしやすいようにするために、各人のフォルダーを作ったが、その準備をするのが大変だった。

【児童の反応】

- 学校内で一度やってから校外学習としたので、受け入れられやすく、一生懸命集中して探していた。
- 授業以外でも、「顔だ!」という声があった。
- パソコン作業についてもっと時間がかかるかと思っていたが、吸収力が高く、お絵かきソフトを十分使っていた。パソコンは初めてだったが、1時間で十分だった。
- 給食のスープをみて、「顔に見えるから食べられない」と言う子どもがいた。

【教師の変化】

- 学校だけでなく、地域に出て何かをするというのは良いと思う。特に、郷土教育の意味からも地域活動に着目して教材化することは良いと思う。
- 3年生でちょうど視野が学区に広がるので、並行してできたので本当によかった。

2

山形県 金山町立金山小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 38人(1学級)
- 実施教科等 : 総合学習・国語・図工
- 実施時間数 : 10時間

実施 / 参照
プログラム

No. 02

これはどこだ? 探してみようまちパーツ



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 金山町の身近な景観を構成する要素の多様性に気づき、その特性を感覚的に把握するとともに、その直接的な要因を意識するようにする。
- 見ることから観ることへつなげるために、普段見慣れた景観に、遊びの要素を取り入れた活動を展開し、町を構成する要素のよさやおもしろさに関心を持たせる。

学習活動

- 出会う：無意識のまま眺めていた景観の中に様々な表情があることを知る（素材との出会い）
- つくる：担当する地域にあるおもしろいと感じたモノの写真を撮り、ヒントカードと問題を作る。写真をもとにワークシートを作成する。
- さがす：他の班が写したモノの場所とそのモノ自体をさがす。
- 気づく：さまざまな素材に囲まれて生活していることに気づく。

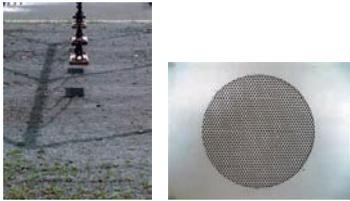
準備品

- デジタルカメラ（各グループに1台）
- コンピュータ
- プリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 付き添い者の評価表
- 地域の白地図
- バインダー、筆記用具
- 原稿用紙
- 取材カード（ヒントカードになるもの）

実施場所

- 教室
- 学区内
- 学区域 など

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	学校内	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が学校内で撮った(部分)の写真を提示し、クイズをする。写真を持って校内、敷地内をグループで探す。 ● 撮影の手順とカメラを扱う時の注意点を確認する。  <p>△教師が作成したクイズ</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真クイズで一気に盛り上がった。見つけるのが大変なモノもあったが、喜んで探し合った。 ○ 写真を撮る角度や撮り方で、おもしろく見えることにも気づき、カメラにも関心を強く持った様子。 
2 時間	学校の近くの金山町内	<ul style="list-style-type: none"> ● 班(4~5人)ごとに、事前に決めておいた地域へ、おもしろいモノを探しに行く。全員がそれぞれに見つけたおもしろいモノの写真を撮る。場所と本体を地図に記録し取材カードにメモをとる。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あれもおもしろいこれも撮りたいと、1人で何枚も撮っている子がいた。今までに気づかなかったことにも驚きを表していた。 ○ 全員が自分で見つけたおもしろいモノを撮影できたのがまたうれしかった様子。 
1 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 国語の「おもしろいもの、見つけた」の学習として、取材カードと書き方の見本を見ながら、見つけたモノを正確に分かりやすく文章で表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 取材カードのメモを膨らませて文章を書くのだが、見本の型を真似ながら楽しんで書いていた。 ○ みんなに早く知らせたいという気持ちが伝わってきた。
1 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分が撮ってきた写真を台紙に貼り、デザインした。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 前日に教師が作った見本を見せて、次の活動を予告していたためもあるだろう。イメージを広げて描いたり作ったりするのが好きな子どもたちでもあるので、集中して一気にしあげていた。

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ毎に、自分たちが撮った何枚もの写真の中から、クイズにする3枚を選び、ヒントカードを書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ○始めは、クイズなので相手に分かりにくいものをと、考える子が多かったが、写真はあくまでも「まちで見かけたおもしろいモノ」という観点で選ばせた。写真が選ばれた子は、大喜びだった。相手が全く分からなかったらつまらないだろうと、考えるようになり、ヒントカードも詳しく書けるようになった。
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●どのグループのクイズを解きに行くかを決め、次の学習の準備をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○くじで、決めた。問題の3枚の写真は出かける当日に配ることを伝え、遊びの要素が多くわくわく感でいっぱいという様子だった。
1時間	学校の近くの金山町内	<ul style="list-style-type: none"> ●班（4～5人）ごとに、他の班が写真に撮った、おもしろいモノを探しに行く。ヒントカードと、問題の写真を持って出かけ、見つけたら、証拠の写真撮る。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ○方面によって、すぐに分かり見つけてしまうところと、雨降りのため、影や光の当たり具合が変わり違って見えるなどの問題から、苦労したところがあった。ヒントが分かりにくく、悩んだところもあった。しかし、探す・見つける・撮影するのそれぞれに、楽しさを感じた様子。 
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●他のグループが撮ってきた写真はあっているか（クイズは当たったか）を点検し合う。 ●今までの活動を振り返り、まとめをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○もったいないとの声。携帯でも、よく写真を撮るようになったという子が増えた。この学習が始まってから、ほかにもいろいろおもしろいものを見つけたという子が、半数近くいた。楽しかった。

児童の作品

◎自分が見つけたおもしろいものを文章で表現しました (児童の作文より抜粋)

ポストの手紙をいれる所
 シの上から見ると、ボウ
 すのすこしをわけていま
 わらばこせよ20センチ
 ちたのせいよりかたで
 すがわらいたきかたで
 写真をとるときは、かた
 きすぎるとりには、かた
 たみんす。(中略)
 銀こうからおしよない
 どうをわたりおだんほ
 いのつがみんろであわ
 ながめくたさのじつか
 ていっがてくたさい。見

きごころばしのすわる所
 てぐうぜん見つけに行
 た。いすすわすわつら
 いすのすわすわつら
 字で金山杉ときさま
 れていました。それが
 ぼくは、カメラのズム
 入ってカメラのズーム
 どりましました。その
 すは、このまえの金山
 材に行きました。その
 材に行きました。その
 ばしの中ときごころ
 いる。金山杉ときご
 ます。その中ときご
 杉のにおいがかぐほ
 としたのにおいがかぐ
 とすきです。すが、

◎自分が撮ったおもしろいものの写真を台紙に貼り、デザインしました



◎おもしろいものの写真を使って、他の班にクイズを出しました



(ヒント) ひょうたんみたいで
なにかまいている



(ヒント) けむりがもくもく
ぞうのしっぽみたいでおもしろい



(ヒント) うずまきになって
丸いかんじがしている

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 付き添いの方で携帯電話をお持ちでない方には小銭の準備をお願いし、電話代は後で支払うようにした。到着後に、付き添いの方から評価書に記入していただき、子どもたちの様子を教えていただいた。
- 1回目の校外活動では、国語の「おもしろいもの、見つけた」の学習をかねて行い、取材メモを取らせた。そのメモは、2回目のクイズの答え探しに行くときのヒントに使った。
- 38人分の写真をクイズにするのは多すぎるので、クイズは各グループ3つずつに絞った。
- 探す地域の地図は持ったが、子どもが作ったヒントカードを頼りに探しに行くので、少し難しく、緊張感もある活動になった。
- ヒントカードを事前にチェックし、説明が不足している文を詳しく書かせたが、自分が知っている場所ではないので、ヒントが間違っていて探すのに苦労したグループがいた。
- デジタルカメラの確保とカメラのトラブルに苦労した。

【児童の反応】

- 1回目は晴天時、2回目は雨天時で、天気具合、撮る角度、撮り方で同じ物でも違って見える楽しさも知った。
- 大変興味と関心を持って取り組んだ。デジタルカメラは使い慣れており、全員の活動が保証され、大いに自己表現が出来た。グループの協力体制も良くて楽しかったようだ。
- またやりたいという声が多かった。写真を撮ることがますます身近になり、デジタルカメラや携帯でも撮影する子が増えた。「よく見るとおもしろいと感じるものが多い」ということに気づく、いいきっかけ作りになった。

【教師の変化】

- 見慣れた景観を、子どもたち以上に、違った見方ができるようになり、町並みに楽しさを感じている。今回の活動と年のせいもあってか、この町が、ますますすてきに目に映るようになってきた。

3

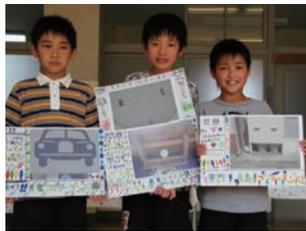
三重県 紀北町立西小学校

- 実施学年 : 5年
- 児童数 : 34人(1学級)
- 実施教科等 : 総合学習、社会
- 実施時間数 : 8時間

実施 / 参照
プログラム

No. 03

よくよく見れば、あの場所に



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 住まいや通学路・商店街など普段何気なしに見過ぎてきている景観（町並み・物）に注目させ、町を構成する素材やおもしろさに関心を持つことができる。
- 地域の町並みについて、地域の人々や先人の工夫・智恵に気づくことができる。
- グループ内の友達と一緒に調べ・発表したり、他のグループの発表や問題提起を見たり聞いたりする等の活動を通して、協力して物事を進めることができる。

学習活動

- よくよく見れば、あの場所に身の回りの建造物や樹木などの表面をクローズアップの写真に撮り、クイズ形式で出題し合い、素材の持つ表情に気づく。
- 出会う：無意識のまま眺めていた景観の中にさまざまな表情があることを知る。（素材との出会い）
 - つくる：担当する地域にある素材のクローズアップ写真を撮り、問題をつくる。
 - さがす：他の班が写した部分の場所とそのモノ自体をさがす。
 - 気づく：さまざまな素材に囲まれて生活していることに気づく。

準備品

- パソコン
- スクリーン
- 白地図
- 糊
- クイズ用紙
- 水筒
- プロジェクター
- デジタルカメラ
- 地域の写真
- 色画用紙
- タオル

実施場所

- 教室・校内
- 校区内

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	教室、 校内	<ul style="list-style-type: none"> ●素材の写真から、様々な表情を知る。壁、木の幹など建物や自然物の表面の写真から学校のどの部分か探す。 ☆カメラの扱い方や撮影の手順を知る。 ●班ごとに分かれ、カメラをもって校内のおもしろそうな表情を見つけ、学校クイズをつくる。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○1枚の素材写真を見て興味を示し、「何に見えるか」「学校のどの部分か」など積極的に考え、活動も意欲的だった。 ○デジカメを使つての「問題づくり」は、思っていたよりも、おもしろく、1枚の写真でも、何に見えるか意見が分かれた班もあった。
1 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●班ごとに撮った写真から、「学校クイズ」を出題し、場所と物を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○みんなおもしろい写真をとっていると思った。 ○なるほど…。○○にそっくり…と思うものがあった。 ○クイズがおもしろいので、答えるのも楽しかった。
2 時間	校区内	<ul style="list-style-type: none"> ●班ごとに5～6人のグループに分かれ、地図とカメラを持っておもしろそうな表情を探しに行く。 ●見つけた表情の写真を撮る。その場所を地図に記録する。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ○学校クイズを作ったときよりも、町の方がたくさん、面白そうな物や不思議な物があって、思っていたより沢山写真をとることができた。 ○「なんて答えるやろう?」と考えながら問題を探すとわくわくした。 ○物には、いろんな表情があることがわかった。写真には、顔のように見える家や壁・物を撮った。 <p>※この活動に対して、興味や関心を深めていった。 ※各班とも活動の約束を意識して行動した。</p>

場所	概要	活動記録	対象者の反応
<p>2 時間</p> <p>教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●班ごとに撮影した写真をもとに、ワンダーランドクイズの問題作りとワークシートの作成をおこなう。 		<ul style="list-style-type: none"> ○沢山撮ってきた写真の中から、問題を作るのが大変だった。意見が分けられたり、答えが異なったりした。 ※問題が他の班に分からないように、班に一つ部屋を与えたので、集中して作業に取り組めた。
<p>2 時間</p> <p>校区内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●班ごとに、他の班が作成したワークシートを見て、どこの何の写真かを相談し、さがしにく場所を分担する。 ●ワークシートと地図を持って、その写真がどこの何の写真かを調査しに行く。  	  	<ul style="list-style-type: none"> ○「こんなの簡単、知っている」と思い、クイズのカードを見たら、「どこにあるのか」「何なのか」わからなかった。だから、集中して、答えを探しているとき、初めて来た町のように見えた。 ○歩いていたら、海のおいがしてきた「魚まちだ」と思った。 ○答え探しが楽しかった。班のみんなで答えをいいて、考えられた。 ※答え探しを通じて、町には色々な物や景色があり、表情があることが分かった。 
<p>1 時間</p> <p>教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●調査結果を発表する。 ●感想文を書く。  	 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんな答えを見つけてきたので、びっくりした。今度、クイズを作るときは、もっと難しい問題にしようと思った。 ○クイズはもっとわかりやすく、はっきり書こうと思った。 ○発表会では、声が小さくなってしまった。もっと練習をすればよかったと思った。 ※今度もこのような活動をしたという声が圧倒的であった。

児童の作品

◎まちで見つけた‘おもしろい表情’の写真を撮影し、クイズを作りました



先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 第一時から校外活動を意識した流れ（学校クイズ作り）に取り組んだ。
- 校外活動での安全確保では、保護者の協力を得て、実施することができた。
- 町をいきなりのクイズ形式で見せていく点がとても奇抜でおもしろい。地域からも注目された。

【児童の反応】

- 町をよく知っていると思っていたが、よくよく見ると知らないことや気づいていないものがたくさんあったので、驚き、興味・関心をもって取り組むことができた。「もう一度したい」という声がたくさん上がった。

【教師の変化】

- 中学年での学習内容を5年生でおこなうので、容易すぎるのでは・・・と心配したが、発達段階に応じた活動ができた。どの学年でも実践可能だと思った。

関連情報

●授業が新聞で紹介されました

クイズの答えを探す授業の様子が、新聞（「中日新聞 牟婁版」2007年7月15日）で紹介されました。記事の中では、「いつも遊んでいてよく知っているつもりだったけど、こんな場所に石の灯籠があるのは知らなかった」「お寺の瓦に表情があるなんて」という子どもたちの声が載せられています。



4

新潟県 妙高市立斐太南小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 19人(1学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 9時間

実施 / 参照
プログラム

No. 04

まちの色・いろいろ



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- まちの中に存在する色は、単なる装飾的な役割を持つだけでなく、様々な意味記号として機能し、まちの景観を形づくっている。そうした生活の中にある色に注目し、まちの景観を構成する色の役割について考える。

学習活動

- グループに分かれて、特定の色を調べることによって、まちではどのような色が使われているのか、そこから、その色が使われているのはどのような意味なのかに気づくようにする。そうした活動を通して、まちを構成する細部にも目を向けることが重要である。
- たとえば、赤色は人々の注意を最も引きつける色であり、人々に警告を発する意味をもっている。看板などに使用される場合、赤色はよく目立つ色であり、宣伝効果を発揮する。黄色は赤色の次に人々の注意を引きつける色である。また、まちの中では、黄色は、赤色と組み合わせて使用されている例もよく見られる。また、教師が用意した「空の色」「森や公園の緑」など、自然の色も参考にして、まち作りにあったほうがよい色、といった観点からも意見がもてるようにしたい。

準備品

- デジタルカメラ（班の数）
- プリンタ
- 写真プリント専用紙
- 写真を貼る台紙

実施場所

- 駅前商店街
- 道の駅あらい
- 教室

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	教 室	<ul style="list-style-type: none">●活動の目的、やり方を教師から聞き、自分たちの担当する色を決める。●どこに、その色があるか予想し、計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none">○デジタルカメラを使えることに歓声が上がった。○担当する色はすんなり決まったが、「どこに、その色があるか」は、一部の児童だけしか予想できなかった。
2 時間	道の駅 あらい	<ul style="list-style-type: none">●グループごとに、自分たちが担当した色を求めて、商店などの看板を巡る。見つけた看板などをデジカメで撮影する。	 <p>△グループで分担した色の看板を探しました。交代しながらデジタルカメラで撮りました。</p>	<ul style="list-style-type: none">○担当した色の看板がほとんどないグループがあり、もう1つ色を追加するよう指示した。○児童だけで、楽しそうに交代で写していた。

3時間

場 所

新井
ショッピング
センター、
新井駅前
商店街

概 要

- グループごとに、自分たちが担当した色を求めて、商店などの看板を巡る。見つけた看板などをデジカメで撮影する。

活動記録



△グループで分担した色の看板を探しました。交代しながらデジタルカメラで撮りました。

対象者の反応

- たくさんの看板があり、喜んで撮っていた。ロングで撮るグループがあったので、アップでも撮るよう指導した。

2時間

教 室

- 各グループが見つけた色をA4版に印刷し、掲示しておく。各グループで、それぞれの色がどんな印象を与えているか話し合い、全体で発表し合う。

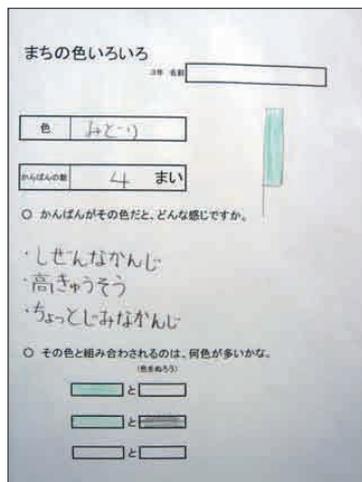
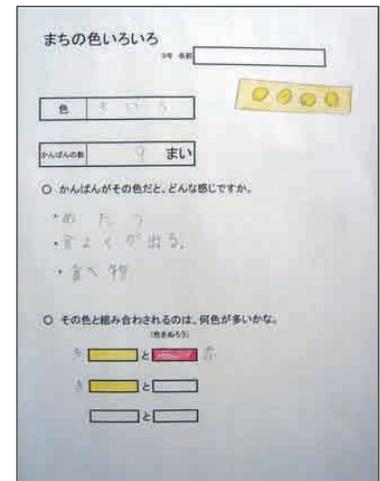
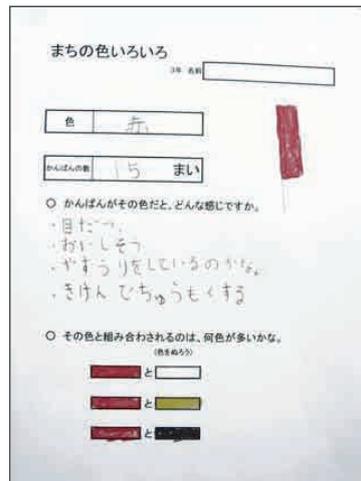
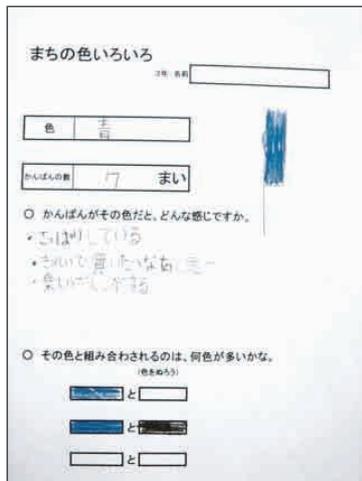


△グループごとに調べた色について、枚数や看板の感じを発表しました。

- 色により看板の数がかなり違うことや、(赤と白など)組となることが多い色の組み合わせに気づいた児童がいた。

児童の作品

◎担当した色ごとに看板を探し、色の印象や色の組み合わせについてまとめました



まちの色いろいろ(2)

色	数	感じたこと
赤	15	一番目くすこい、とても目立つ
黄色	9	食べ物かんけいか、めたつほう
青	7	めたつ、きれい
緑	4	めたつ少ない、せん

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- デジタルカメラをグループごとに与えた。
- 撮影した写真を A4 用紙に印刷し、色ごとに黒板やパネルに展示し、パネルディスカッションの要素を取り入れた。
- 3年生だったので、イメージを言葉にするのが難しかった。

【児童の反応】

- 撮影は喜んで行った。
- 色のイメージを言葉にする活動は、3年生だったため、一部の児童がかなりリードしてまとめていた。

【教師の変化】

- グループごとにちがう課題（ちがう色）というのが児童の意欲を高めるのに有効だということがよくわかった。

5

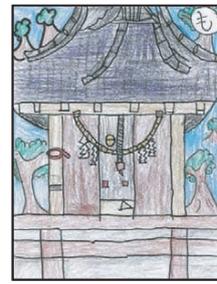
茨城県 桜川市立羽黒小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 46 (2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 6時間

プログラム

No. 05

地域カルタをつくろう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 自分の暮らす身近な地域・景観のよいところを形づくっている要素にはいろいろあることに気づかせるとともに、地域への愛着心を育てる。
- 写真や絵、文章などで表現する力を高める。

学習活動

1. 絵札・読み札の構想づくりを行う。
2. カルタの題材を探しに地域を探検する。(デッサンにでかける)
3. 絵札・読み札を作成する

準備品

- 見本となるようなカルタ
- 地域探検用の地図
- デジタルカメラ、カメラ

実施場所

- ワーキングスペース
- 教室
- 学校の周辺 (西小塙地区、磯部地区、谷中地区、稻荷橋地区、稲地区、東友部地区、西友部地区、駅前地区)

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	教 室	<ul style="list-style-type: none"> ●一般的なカルタの紹介を行う。 ●ここで考えたいカルタの例を示す。 ●構想シートをあらかじめ作成し、配布する。 	各自が読み札の素案を考え、メモしたりしながらイメージやキーワードなどをメモした。	○各児童とも真剣に取り組み熱心に考え活動していた。
2 時間	校 外 学校区	<ul style="list-style-type: none"> ●素材探しの目のつけどころを事前に説明しておく。 ●事前に地図を用意しておき、配布する。 ●デジタルカメラやカメラなどで記録のため、その場所を撮影し、記録しておく。 		○各自が地域全体に関心を深め、内容についての情報収集や探検を通して身近なよさを発見することができ、生き生きと活動することが出来た。

2 時間

場 所

ワーキング
スペース

概 要

- 地域カルタ作りをする。
- 前回の地図と写真をもとに絵札を作成する。
- そのものを描くということでも、この場をこうしたいといった思いを含んだ未来のまちの絵を描いてもよい。
- 読み札も作成する。

活動記録



△この地区の風景はどうか



△さあ、カルタ取りをしよう

対象者の反応

○自分の発見のよさを、自分なりに表現力を生かして絵札、読み札作りの活動を楽しく展開することが出来た。

1 時間

ワーキング
スペース

- 発表会をする。
- 自分がつくったカルタの作品について発表する。
- どうしてこのようなカルタを作ったのか、各自発表できるようにする。

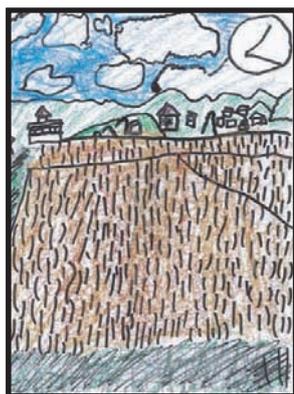


△自分で作ったカルタを大きな声で発表

○自分の担当した地域の風景をしっかり捉え、絵札と読み札の作品（カルタ）を作り、皆の前で発表することができた。

児童の作品

◎地域探検で発見した素材を使い「地域カルタ」を作りました



あ のつまいぬ
いっしょに
まもりがみの

くろくして作る
こむぎばたけも
かねいろ

もりの中日か
げがいばい
かとり神社

ゆ ろゆると
木の葉がゆれる
月山寺

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 6時間という比較的短い時間のなかで、総合的な学習の時間を使い地域全体の取材を実施すると共に絵札、読み札等の作成に力を入れた。
- 児童が主体的に取り組めるように、ねらいを生かし児童の発想をふくらませ、多様な表現方法でまとめることができた。
- 3年生になって、初めて社会科の学習で、自分たちの住んでいる地域についての学習に大いに役立った。
- 日頃から地域の自然や風景をみているので、地域カルタをつくるのにあたって、児童にとっても理解しやすい題材であった。
- 決められた時間の中で活動するのに余裕がなかった。

【児童の反応】

- 各児童が地域全体に関心を深め、内容についての情報収集や探検を通して身近なよさを発見することができ、生き生きと活動することができた。

【教師の変化】

- 景観は目に見えるだけに誰もが理解しやすいものなので、景観的観点を加えたカルタ作りができたことと、更に地域の良さが分かった。
- 自分の住んでいる地域の良さに目を向け更に地域に関心をもちたい。

関連情報

●授業が新聞で紹介されました

発表会の様子が、新聞（「茨城新聞」2007年6月30日）の記事で紹介されました。記事には、絵と文章で仕上げたカルタの発表の後、カルタ取りで遊んでいる様子の写真も掲載されました。



6

千葉県 市川市立宮田小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 70人(2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 13時間

実施 / 参照
プログラム

No. 05

地域カルタをつくろう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 「地域カルタ」づくりを通して、児童が「まち」の様子を観察、調査していく中で課題解決能力を培うとともに、地域の様々な方との対人関係能力を高め、さらに地域への愛着を深めることができる。

学習活動

1. 「まち」のどんな写真を撮りたいかテーマや内容を決める。
2. テーマに基づき地域に出かけ写真を撮る。
3. テーマに沿って選んだ写真に言葉を添え、「地域カルタ」を作成する。
4. 「住みたいまちづくり」のために考えたことを整理し、新版「地域おもしろマップ」を作成する。

準備品

- レンズ付きフィルム
 - 市川南地区白地図
 - 写真を貼る台紙
 - カード
 - バインダー
 - 筆記用具
- (必要に応じて、デジタルカメラ・パソコン・プリンタを用意する)

実施場所

- 市川市市川南1丁目～3丁目及び市川市新田2丁目～4丁目の宮田小学校学区を中心とした地域

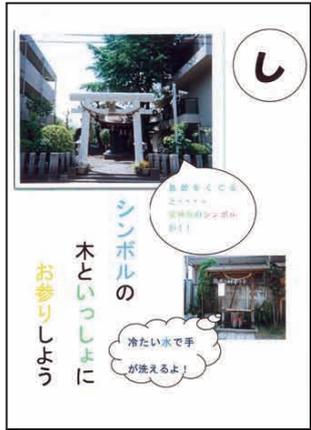
学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	多目的室	<ul style="list-style-type: none"> 市川南まちづくり推進協議会の2名の方から、これからの「まち」づくりに寄せる思いや、児童が写真に収めたいと考えている場所について、話をうかがった。 	 <p>△参考資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童各自に資料が渡されることで、撮りたい写真のイメージを明確に捉えることができた。
2 時間	市川南商店街、大洲防災公園 ほか	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人がレンズ付きフィルムを持って、グループごとに写真撮影に出かけた。 	 <p>△街中での写真撮影</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童個々がカメラを持ち、自分の撮りたいように写せることは、学習への意欲を増した。 児童は、対象物に近づいたり遠ざかったり、また上から下からなど、アングルを変えて撮影を行った。
2 時間	コンピュータ室	<ul style="list-style-type: none"> 自分が撮影してきた写真を収めた CD-ROM を使い、カルタにしたい写真を選んだ。 	 <p>△撮った写真の編集</p>	<ul style="list-style-type: none"> 撮った写真のどの写真を選ぶか、そしてどのように編集したらよいかを決めるのに時間を要した。児童は、写真の形や大きさをいろいろ変えて、自分の思いをカルタ（絵札）にしていった。

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
3時間	6年教室	<ul style="list-style-type: none"> ●選んだ写真がテーマに合っているかを考え、写真を台紙に貼ってカルタ（絵札）をつくった。 	  <p>△絵札の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○選んだ写真の編集のため、ワードアート・図形描画などの編集技法を併せて指導したが、児童は興味を持って作業に取り組んだ。 ○コンピュータの編集技法を習得するのに時間を要した。
1時間	6年教室	<ul style="list-style-type: none"> ●選んだ写真に合わせて、その場面を説明する言葉をカード（読み札）に書いた。 	 <p>△読み札の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読み上げたときに語調がよいように、七五調で言葉を考えさせた。児童は声に出しては、言葉を工夫していた。
2時間	6年教室	<ul style="list-style-type: none"> ●カルタ取り大会を行った。 	 <p>△カルタ取り大会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学級対抗で行うことで、楽しくカルタ取りを行った。他の児童のカルタを見て、出来栄を評価し合った。
2週間	6年教室前廊下	<ul style="list-style-type: none"> ●展示会を開催し、地域の方や保護者に参観していただいた。 	 <p>展示会の開催</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の方に褒めていただくことで、学習への自信を深めることができた。

児童の作品

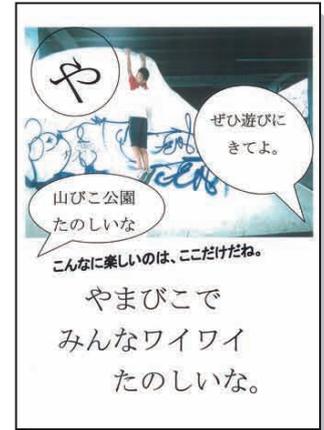
◎まちで撮影した写真をパソコンで編集して
カルタを作成しました



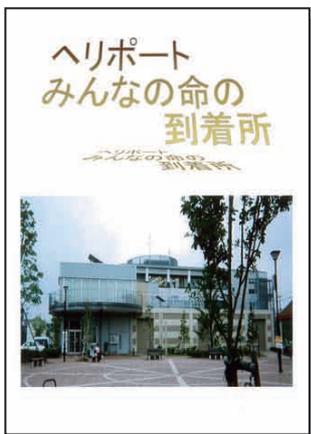
「シンボルの木といっしょにお参りしよう」



「楽しいな 生き物たくさん ビオトープ」



「やまびこで みんなワイワイ たのしいな。」



「ヘリポート みんなの命の到着所」



「笑顔いいね あいさつあるよ ゆうゆうロード」



「もうできる 新たな街は 駅直結」

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 児童一人一人にレンズ付きフィルムを持たせ、自分の撮りたい写真を撮らせた。撮った写真を CD-ROM にし、写真の編集を可能にした。
- コンピュータの編集技法が身に付いていない児童が多く、編集に時間を要した。
- カルタづくりを通して、児童の関心・興味のある対象物については関わりを深めることができるが、地域の景観という範囲にまでは考えが至らない。今回は、カルタを寄せ集めて、地図づくりを行ったが、「住みたいまち」というねらいが不鮮明になってしまった感がある。
- 対象物によっては、撮影する意図が表現しきれない場合があり、児童の思いと指導者の考えとの調整が必要であった。

【児童の反応】

- 自由に写真を何枚も撮ることによって、対象物への関わりを深めることができた。
- 児童は全体を通して意欲的に取り組んだ。また、カルタ会では歓声を挙げて楽しんでいた。
- 対象物の良さを再認識することで、愛着が増したように感じられる。

【教師の変化】

- カルタづくりという目標が明確であり、児童の思いや考えを「写真」と「言葉」の両方で表現できるおもしろさがある点が優れている。

7

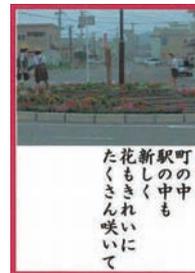
宮崎県 日向市立富高小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 99人(3学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 9時間

実施 / 参照
プログラム

No. 05

地域カルタをつくろう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 自分の暮らす身近な地域の自然・景観のよいところを形づくっている要素にはいろいろあることに気づく。
- 写真や絵、文章などで表現する力を高める。

学習活動

1. まちづくり学習オリエンテーション
2. まち歩き (まちに対する関心の喚起)
3. 短歌づくり
4. まち歩き (短歌に合うイメージを撮る)
5. 絵札づくり

準備品

- ワークシート
- デジタルカメラ
- 日向市駅周辺地図
- 絵札用シート
- 絵札編集用ソフト

実施場所

- 富高小学校・日向市駅周辺
- 教室
- パソコン教室

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	教 室	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり学習 ・オリエンテーション ・学習の進め方 		<ul style="list-style-type: none"> ○初めて取り組む学習であるとの意識が強く、楽しみにしている様子が見られた。 ○あまり行ったことのない学習なので、短歌と写真を組み合わせていくことに不安を感じている児童も少数見られた。
2 時間	学 校、 日向市駅 周辺	<ul style="list-style-type: none"> ●まち歩き (まちに対する関心の喚起) ・自分なりに視点をもった観察 ・身近なまちについての理解  	 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの住むまちではあるが、自分の住む地区以外のことは、あまり知らない児童が多く、初めて知ることがあり、意欲的に観察していた。 ○駅が新しくなってから初めて来る児童も多く、駅の新しさや、木をふんだんに使ってまちづくりが行われていることに感心している様子が見られた。 
1 時間	教 室	<ul style="list-style-type: none"> ●短歌づくり ・短歌をつくる ・短歌のイメージを膨らませる 		<ul style="list-style-type: none"> ○前回の見学をもとに、メモしたことをうまく使っていくつもの短歌を作ることができた。 ○なかなか短歌ができない児童も、早くできた児童の作品を参考にして、教師の助言をもとに短歌をつくることができた。 ○全体的に多くの短歌を詠むことができた。
2 時間	学 校、 日向市駅 周辺	<ul style="list-style-type: none"> ●まち歩き (短歌に合うイメージを撮る) ・イメージ写真の理解 ・まちについての確認 <p>※ 市職員の方の説明あり ※ クラス毎に校外学習を行ったため、実施日はクラス毎に異なった</p> 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに (全 6 グループ) デジタルカメラをもち、自由に写真を撮ることができた。 ○市役所の方の協力で、これからの駅周辺のまちづくりの様子や建物、遺跡の話なども聞くことができ、まちについての理解を深めることができた。 ○前回つくった短歌のイメージとは違うものも撮影し、次時への意欲を高めている児童も見られた。 

2 時間

パソコン
教室

- 絵札づくり
- ・絵札づくり
- ・編集、校正



対象者の反応

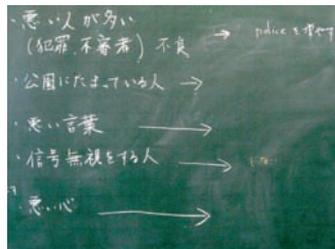
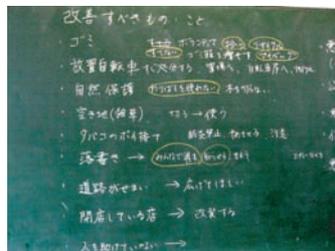
- パソコン教室で、ソフトの説明を受け、短歌とイメージを楽しく組み合わせることができた。
- 初めて操作するソフトだったが、グループで教え合いながら活動することができた。
- 時間内にほぼ全員が作り上げることができた。数名の児童は、2、3の作品を作り、どちらの作品を自分の作品として提出するか迷う様子も見られた。



1 時間

教室

- ふりかえり
- ・まちづくり学習のふりかえり
- ・自分たちにできることについて考える



- これまでの学習を振り返り、自分達の住むまちに必要なもの(こと)、不要なもの(こと)、改善の必要なもの(こと)についてしっかりと考えることができた。
- お互いの意見を発表していく中で、自分たちの住むまちを自分たちでより良くしていこうという意欲をもった様子が見られた。



児童の作品

◎美しいと思うもの、残したいと思うもの、強く心に残る場所やものなどを題材に短歌を詠み、写真を撮影して、「地域カルタ」を作成しました



杉造り
山のめぐみ
美しい宮崎
県が山木



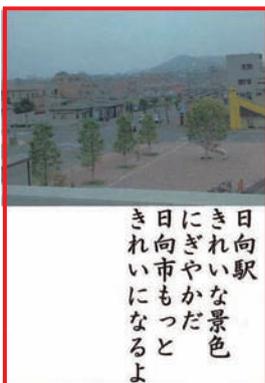
駅の中
木がいっぱい
いい気持ち
だからみんなは
笑顔なのかな



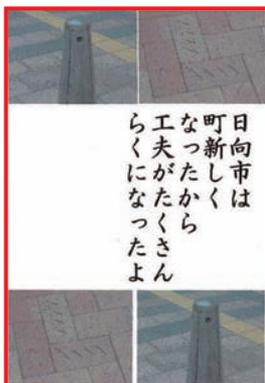
日向市は
いろいろな花
さいいて
緑豊かで
にぎやかな町



日向駅
どんどん変わって
きているな
きいては
一年後には
どうなっているか



日向駅
きれいな景色
にぎやかな
日向市も
きれいなよ



日向市は
町新しく
なつたから
工夫がた
くさん



スギの木は
日向市に
使われた
もつと
日向市
駅



プランター
杉の木
自然が
日向の町

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- イメージを膨らませるために、事前にまち歩きをおこなって、まちについて調べようとする意欲づけをした。
- デジタルカメラを活用することで、まちの景観を子ども達がより焦点をあてられるようにした。
- 学級をさらに6グループ（1班：5～6人）に、小分けすることで児童の活動量を増やした。また各班に市の職員の方についてもらい、まち歩きの安全面を確保しながら、市の取り組みとしてのまちづくりを説明してもらいながら活動することができた。
- 振り返りの時間を設定し、児童の意欲を高めた。

- まちや市全体の景観についてとらえさせようとしたが、児童は新しくできた駅にどうしても意識が集中してしまっただ。

【児童の反応】

- 全体的に楽しく活動できた。また、自分の撮った写真に自分の作った短歌をあわせできたものを見て嬉しそうだった。

【教師の変化】

- 学校所在地近辺についての理解が深まり、市が進める景観に配慮したまちづくりを知ることができた。また、市の職員との連携をとることでより効果的な指導ができた。

関連情報

●授業の様子が新聞で紹介されました

「地域カルタをつくろう」以降も、まちづくり学習を継続して行いました。2学期には、杉でリース（クリスマスリース）を製作し、開業1周年の駅舎等に設置されました。この授業が、新聞（「夕刊デイリー（県北版）」2007年12月24日）で紹介されました。3学期には、駅周辺のまちづくりについて学び、駅前広場に埋設するタイムカプセル作りを行いました。



8

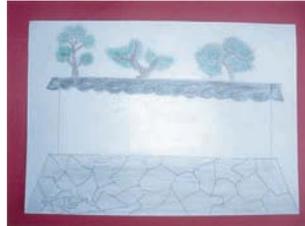
茨城県 桜川市立羽黒小学校

- 実施学年 : 4年
- 児童数 : 53人(2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 8時間

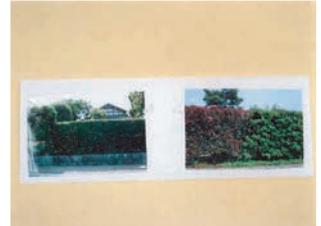
実施 / 参照
プログラム

No. 06

塀もまちの景観の一部



こんな塀を作りたいな



生け垣の塀

学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- まちを構成する要素の一つである塀が、その種類や色の違いにより人に与える印象が変わることに気づく。
- まち全体ではなく、まちの見えている一部分である塀が変わることで、まちの景観が変化することに気づき、まちの景観がよくなるにはどうすればいいのかについて考え、発表できる。

学習活動

- 本題材は、まちの景観の良さを「統一感」や「調和」という観点から考えていくものである。
- 小学生の低い目線でまちを見ると、子どもたちが何気なく目にしているまちには、塀がたくさんあることに気づく。塀は、色や素材、大きさの違いによって、人に与える印象が変わる。またその連なり方によって、まちの景観が「よくなる」ことも「わるくなる」こともある。
- 授業は、まちの見えているところには塀がたくさんあることに気づくことから始まる。塀に注目して町を探検し、塀には様々なものがあることを発見していく。
- 学校に戻り、それぞれの塀が与える印象について考える。同時に、その塀の印象がまちの印象にも影響していることに気づかせたい。どのような塀が連なることで、まちの印象、つまりまちの景観が良いものになるのかを塀の写真を使った実験的な作業を行いながら考えていく。

準備品

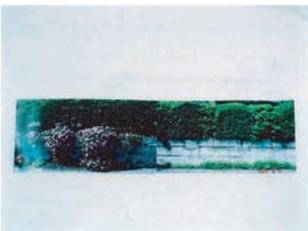
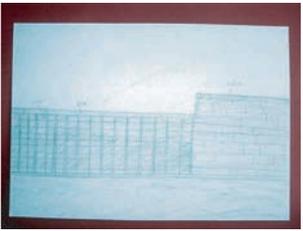
- 子どもの目線でまちを撮影したビデオ（3～5分程度）
- デジタルカメラ（グループに1台）、プリンタ
- A3サイズに拡大した塀の写真（児童の撮った写真から種類の違うもの数点）
- 3cm×3cmサイズに縮小した塀の写真（種類の違うもの数点、特徴のあるもの）
- ワークシート、探検バック、筆記用具・のり

実施場所

- 教室
- 学校周辺

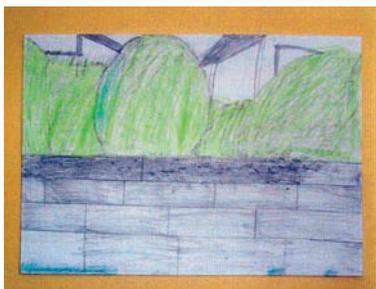
学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	ワーキング スペース	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの目線で撮った、町並みの映像を見る。 ●環境カウンセラーの助言を受けながら、まちの中にはたくさんの塀があることに気づく。塀の特徴を知る。 ●次時のまち探索の説明を聞く。4ないし5人ぐらいのグループを作り、探索する場所を決める。 	 <p>△環境カウンセラーの助言を受ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ビデオの映像をみて、塀についての興味や関心が高まった。 ○環境カウンセラーの方の話がとても分かりやすく、まち探索の意欲が高まった。
2 時間	学校周辺	<ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに決めた場所を探索する。(4箇所、11グループ) ●自分の気に入った塀を調べる。 ●デジタルカメラやレンズ付きフィルムを使って写真を撮る。 ●保護者に引率補助の協力をお願いする。 	  <p>△グループ別提案活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな素材の塀に気づいた。 ○塀の上が瓦でできている塀や花崗岩でできている塀に対する関心が高かった。 ○児童の目線からそれぞれ好きな塀を写真に撮っていた。

場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
<div data-bbox="76 259 225 409" style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 10px; text-align: center; font-weight: bold;">2 時間</div> <div data-bbox="261 320 347 349">図工室</div>	<ul style="list-style-type: none"> ●前時に撮った写真の拡大したものを見て、塀には様々な種類、色、形、素材があることに気づく。 ●塀の写真を並べて、一番よいと思った組み合わせをつくる。 	<div data-bbox="794 277 1155 546" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">△写真を使って組み合わせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が撮ってきた写真の中から気に入ったものを選び、並べていた。 ○塀の種類や色や素材に注目していた。
<div data-bbox="76 891 225 1041" style="background-color: #f4a460; color: white; padding: 10px; text-align: center; font-weight: bold;">2 時間</div> <div data-bbox="261 947 389 1014">ワーキングスペース</div>	<ul style="list-style-type: none"> ●自分がつくった塀の作品について発表する。 ●みんなでどの作品が良かったかそれぞれの考えを出し合う。 ●塀がまわりの景色とうまく合っているか考える。 <div data-bbox="443 1272 751 1503" style="text-align: center;">  <p>△「生け垣と組み合わせる」</p> </div> <div data-bbox="443 1554 746 1785" style="text-align: center;">  <p>△「私のデザイン」</p> </div> <div data-bbox="443 1836 751 2067" style="text-align: center;">  <p>△「お花がいっぱいの塀」</p> </div>	<div data-bbox="794 913 1155 1189" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="794 1205 1155 1473" style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">△発表会</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○材質で選んだ児童 ○色で選んだ児童 ○形で選んだ児童 ○それぞれに自分が選んだ理由を付け加えて発表できた。 ○まわりの景色（畑）とうまく合わせてつくった作品もあった。

児童の作品

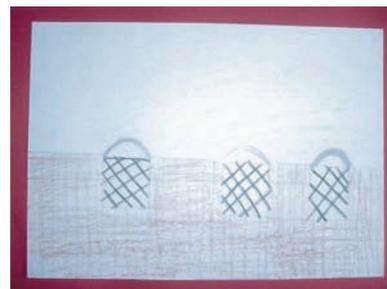
◎絵を描いたり、写真を組み合わせたりしました



木と石塀の組み合わせ



お城のような塀



こんな塀を作ってみたい



石の塀



白い石の塀



植木のある塀

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 子どもたちが学習する前に、景観カウンセラーの講話を聞いたことで、子どもたちの学習意欲が高まった。
- まちを、子どもの目線で撮るために、朝早くからビデオカメラをもって町内を歩いた。
- まとめるときに、どうしてその組み合わせにしたのか理由を発表できるようにするために、一人一人の活動に短時間で対応しなければならなかった。
- 映像（写真）をもとに学習をすすめていくことから、デジタルカメラの利用が効果的である。
- 並べて組み合わせることを考えて写真を撮らないと、連なっている感じが出ないことを児童には事前に説明しておく必要がある。

【児童の反応】

- 境界のための塀の働きだけでなく、見た目を考えて塀を作っていることに関心を持つようになった。
- 町並みをつくる要素としての塀の役割に気づいてきた。

【教師の変化】

- 景観カウンセラーや茨城県都市計画課の職員と「景観法」に基づくまちづくりについて話し合う機会がもててよかった。

関連情報

●授業が新聞で紹介されました

羽黒小学校の景観まちづくり学習が、新聞（「毎日新聞 いばらきワイド」2007年6月23日）の記事で掲載されました。発表会の様子が紹介され、記事では、「一人一人が、塀がまちの景観にどんな働きをしているかを学んだようだ」と紹介されています。



9

宮崎県 日南市立油津小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 70人(2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 15時間

実施 / 参照
プログラム

No. 07

看板からまちの風景を考える



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- まちにある看板を写真に撮り、特によいと思う看板ベスト3を選び、そのよさの理由を考える。まちの看板を参考にし、学校の看板を考える。

学習活動

1. 学習の計画を立てる。
2. 自分たちの住んでいるまちを歩き、よいと思う看板を撮影する。
3. 班で話し合い、看板ベスト3とその選考理由を考える。
4. まちの看板を参考に油津小学校の看板をデザインする。

準備品

- 市街地地図
- レンズ付きフィルム
- ワークシート

実施場所

- 校区内

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	各教室	<ul style="list-style-type: none"> ●学習のねらいを確認し、学習の計画を立てる。 ●取材の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グルーピング ・取材地域の選定 ・役割分担 等 	<p>看板についての調査を行い、最終的には、学校の看板を作ることを確認した。</p> <p>取材班や調査場所について、話し合い、決定した。</p>	<p>○普段何気なく見ている看板についての学習ということで新しい発見ができそうだという予感をもったようだ。</p>
3 時間	油津の町	<ul style="list-style-type: none"> ●取材に出かける。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真を撮る：よいと思う看板の写真 ・コメントを考える：看板を選んだ理由など 	  <p>△油津地区の商店街を中心に看板を探し、どのような工夫がなされているかを調べました。</p>   <p>△店の人やまちを通りかかった人にインタビューしたりして、工夫点についてくわしく具体的に調べるようにしました。</p>	<p>○カメラの撮影枚数を考えながら計画的に撮影をしていた。</p> <p>○今まで気づかなかった看板を見つけては、興味深そうに観察していた。</p>
	各教室	<ul style="list-style-type: none"> ●資料をまとめる準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・使いたい看板の写真やコメントの選定 		

2 時間

場 所

体育館

概 要

- 班ごとに看板ベストを話し合う。
 - ・一人ずつ気に入った看板とその理由をプレゼンテーションする。
 - ・質疑応答をしながら意見交換をする。

- 発表会をする。
 - ・発表
 - ・質疑応答



活動記録



△「まちの看板調べ」で選んだ「看板ベスト3」の発表の様子

対象者の反応

○取材した写真を見直し、工夫している点や見やすさ、表現のおもしろさなどを意欲的に発表し合っていた。

○他の班の見つけた看板について興味深く見入っていた。

○各店舗の看板の工夫点や、これから油津小学校オリジナル看板を作成していくためのヒントを得ていた。

8 時間

体育館

- 油津小学校の看板をデザインし、作成する。



△南那珂地区森林組合の方に飼肥杉を提供してもらい、看板の材料の一部とした。

- 友だちと見せ合い、コンクールを開く。



△「看板コンクール」審査中の様子



△調べ学習を通して分かったことを、看板に生かせるように話し合い、デザインや色などについて考えさせた。



△「看板コンクール」プレゼンの様子

○調査した看板の工夫している点などを参考にしながら、班で協力して看板を作成していた。

○金槌や釘を持つことが初めての児童が多く、悪戦苦闘しながら作成していった。

○コンクールでは、ポスターセッションの形式で発表を行い、質疑応答を活発にしていた。

○各グループは、自分達の作成した看板の工夫点などをプレゼンテーションし、それを他児童や教師、地元の方に視点に沿って審査してもらった。

児童の作品

◎油津小学校オリジナル看板を制作しました



先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 看板からどのようにして油津のまちのよさを感じとらせるか、その視点設定を工夫した。
- 自主研修での児童の行動チェックに苦労した。

【児童の反応】

- 大変興味深く取り組み、意欲的に活動していた。「豊かな自然」「伝統」「漁業のまち」というまちの特徴をよく発見・理解していた。

【教師の変化】

- 知らなかったことの発見があり、おもしろかった。地区の方とも連携を図ることができた。
- ふだん何気なく見ている看板だったが、児童とともに調べていく中で数々の工夫点があったことに驚いた。
- 油津のよさについても改めて考え直すことができ、油津のまちづくりに携わる人々の思い、そしてこれからもっとどんなまちにしていこうかなという新たな期待をもつことができた。

10

東京都 世田谷区立桜丘小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 132人(4学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 11時間

プログラム

No. 08

わたしたちのまちに言葉の贈りもの



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 自分達の住む地域の施設や行事の様子を調べ、人々の暮らしがそれらと深く関わり合っていることをとらえさせ、地域社会の一員としての自覚を持てるようにする。
- 地域を歩き、桜丘に残された建物や行事が、桜丘の人々によって守り育てられていることを知る。

学習活動

1. まちたんけんの計画をたてる。「桜丘の宝物」をさがそう
2. 学区域内をたんけんし、「桜丘の宝物」を見つける。
3. まちをたんけんして、みつけた「桜丘の宝物」についてまとめる。
4. 「桜丘の宝物」の発表会を行う。(桜丘のまちは、多くの人々の努力によって守り育てられている)

準備品

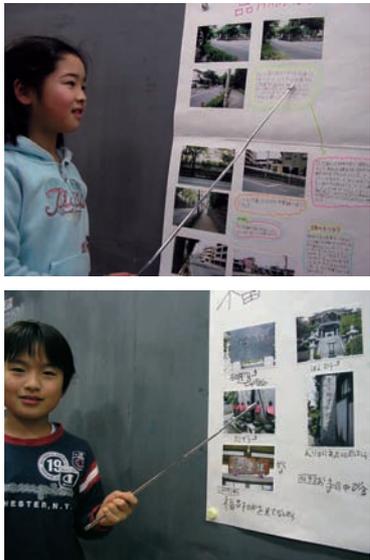
- 地図
- ワークシート類
- 写真類
- 記録ボード
- デジタルカメラ

実施場所

- 各教室
- 桜丘のまち

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●「桜丘の宝物をさがそう」の計画をたてる。 ①「自分の宝物」を考える ②「桜丘の宝物」と、そう考えた理由を発表する 		<ul style="list-style-type: none"> ○「宝物」という言葉に引かれ、意欲的になった。 ○「自分自身の宝物」から「桜丘の宝物」と視点を変えて広げた時に、子ども達から積極的な発言が相次いだ。
2時間	学区域	<ul style="list-style-type: none"> ●学区域に出て、「桜丘の宝物」をさがすまち探検に出発。 ① 東西南北の各地域をめぐる ② 気になる建物等々を記録する 	   	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に出での学習は大好き。「桜丘の宝物」を発見するたびに、歓声をあげ、メモにとったり写真にとったり大興奮。
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ③大地図にまとめる 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○「桜丘の宝物」がこんなに沢山あったんだ、と改めて感心する子どもたち。 ○自分の知ってる情報をつけ加えていった。

場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
<p>2 時間</p> <p>学区域</p>	<p>●もっとくわしく調べてみたい「桜丘の宝物」を選び、調査に出発。</p> <p>①まとめた宝物（9つ）の中から1つを選択する</p> <p>②調べたいことをはっきりさせる</p>		<p>○実際に歩いて見てきた「桜丘の宝物」の中から、これをもっと深く知りたい調べたいという思いが強くなった。</p> <p>○一人一人の子どもが課題をしっかりつかめた。</p>
<p>3 時間</p> <p>教 室</p>	<p>●調べてきたことをまとめる。</p>		<p>○集めてきた情報の中から一番伝えたいことを選んで一生懸命まとめた。</p> <p>○伝えたいことが良く伝わるよう、写真やスケッチを入れた。</p>
<p>2 時間</p> <p>教 室</p>	<p>●「桜丘の宝物」の発表会を行う。</p> <p>①桜丘には、古い建物や昔から伝わる行事がある。</p> <p>②桜丘のまちなみは守り育てられてきたもの。</p>		<p>○ふだん通っている通学路のまちなみ（石垣）が250年以上も昔に作られていたことを知りおどろいていた。</p> <p>○古い寺社が建立された理由を知り、昔の人の願いにふれ、共感していた。</p>

児童の作品

◎地域探検で調べた成果を 「桜丘のたからもの」としてまとめました

長島大榎公園の大木のひみつ

ぼくは長島大榎公園に残っている大木を調べてみたくなりました。なぜかと言うととっても大きい木ですし、コンクリートで出来ていたからです。

この大木も今からおよそ40年前、台風によって上の方が折れてしまったそうです。それまでは、大きな枝を広げて、夏はこかげを作り、秋にはオレンジ色の実をたくさんつけて、この実は食べられたそうです。台風によって折れてしまったあとは、地下水の水位が下がったり、空気よごれもあり、とうとうかれてしまったそうです。

そこで、大木があったことを忘れず、のちの人々に伝えようと、コンクリートで形をとって残したそうです。

ぼくは、大木のことをいろいろな人に聞いてまわりましたがドキドキしました。でも、大木のひみつをたくさん知ることができてうれしかったです。ぼくは、この木が生きている姿を見たかったです。

(児童の作文から抜粋)

「経堂」の名前の由来

わたしは、自分の住んでいる「経堂」の名前の由来を調べてみたくなり、このテーマにしました。

福昌寺が「経堂」の名前の由来となったお寺だそうです。名前の由来には、三つの説があります。

一つ目は、福昌寺の中の建物の中にたくさんの医学書があったそうで、それをお経とかんちがいして、その建物を「経堂」とよぶようになった。

二つ目は、この寺の建物の一つが関東地方にあまりない「京風のつくり」だったので、それを「京堂」とよぶようになった。

三つ目は、福昌寺の中に、お経をおさめた堂が立てられたので、「お経堂」とよぶようになった。

わたしは、これらのことを調べて、どれが本当の理由なんだろうと思いました。どれもそれぞれに「本物らしく」、おもしろいなと思いました。

にぎやかな駅前に福昌寺はあるのに、中はとても静かです。今では中に、保育園もあります。むかしからふしぎがたくさんあったお寺だなあと思いました。

(児童の作文から抜粋)

お地藏さんのひみつ

ぼくは、家の近くにある「お地藏さん」が気になっていたのので、調べてみたいと思いました。

これが建てられた理由はわかりませんでした。でも、建てられたあとのエピソードにおもしろい話がありました。

それは、お地藏さんは子どもが大好きで、子ども達もよくこのお地藏さんのところで遊んでいたそうです。ある日、お地藏さんが建っている土地の持ち主が、子ども達に、「お地藏さんのところで遊ぶな。」と言ったそうです。すると、その土地の持ち主の家族が次々と病気になり、占い師にみてもらったところ、お地藏さんから子ども達を遠ざけたことが原因だと言われたそうです。そこで、あわてて子ども達に「前のようにお地藏さんと遊んでいいよ。」と伝え、子ども達がお地藏さんと遊ぶようになったら病気がなおったそうです。

ぼくはこの話を聞いて、すごくおもしろいなあと思いました。こんな言い伝えがあるなんて知りませんでした。昔から、人々は子どもやお地藏さんを大切にしてきたんだなあと思いました。

(児童の作文から抜粋)

「石仏公園」の名前の由来

近くにある石仏公園の名前がおもしろいと思って調べてみることにしました。

わたしは、世田谷土木公園かん理事む所に行ってインタビューをしてきました。その結果いろいろなことがわかりました。

まず初めに、公園のあった所は、川だったそうです。びっくりしました。昭和35年に公園にしたそうです。

次に、石仏公園の名前の由来を調べました。わたしは、はじめ「石の仏様がいるから」石仏公園かなんと思っていた。調べてみるとそうではありませんでした。昔、ここを流れていた川から小さな石仏が見つかったから、そのような名前にしたということがわかりました。

今、石仏公園には、鉄ぼう、ブランコ、すな場、すべり台、うんていなどがあります。ふん水や花がたくさんうえられたきれいな花だんもあります。

わたしは、こんな石仏公園が大好きです。これからも大切にしていきたい公園です。

(児童の作文から抜粋)

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 地域の人材との連携調整に苦労した。
- 課題を個人にもたせるには、十分な指導時間が必要であった。
- 地域の資料が乏しかったので支援が難しかった。
- 保護者の厚い協力と支援こそがカギ。感謝の気持ちもいっぱい。

【児童の反応】

- 子どもが自分のまち、景観を改めて見直し、興味をもつようになった。

【教師の変化】

- 本校周辺の様子について、歴史的価値に加えてまち並みや景観にも目が向けられるようになった。

11

愛知県 豊田市立童子山小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 108人(3学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 11時間

実施 / 参照
プログラム

No. 08

わたしたちのまちに言葉の贈りもの



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 学校の周りのようすに関心を持ち、意欲的に調べようとする。
- 身近な地域の場所による違いや特色を具体的に考えることができる。
- 学校の周りの自慢したい所を、探検計画に沿って具体的に調査し、その結果を写真や絵を使って分かりやすくまとめ、発表することができる。
- 童子山学区のそれぞれの場所のよさや特徴が分かる。

学習活動

1. 学校の周りのようすを、探検する。
①わくわく商店コース ②文化芸術コース ③田・畑コース ④住宅コース
2. コース図に気づいたことや思ったことを記録し、探検地図を作る。
3. 一番自慢したい地区の調査内容を、写真や絵を使って分かりやすくまとめる。
4. 発表会をして、お互いの自慢したい地区を紹介する。

準備品

- デジタルカメラ (各グループ1台)
- 記録用紙
- コンピュータ
- 地域図
- プロジェクター

実施場所

- 学校周辺
- ワークスペース

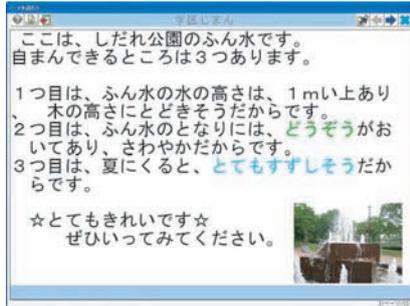
学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	学校の東	<ul style="list-style-type: none"> ●樹木町方面の商店の多い地区の探検をする。 (わくわく商店コース) 	  <p>△いろいろな商店を見て回ったよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○COCO ストアー、エキスポセンター、ペットエキスポなど身近にある商店を見学し、商店の大きな特徴をとらえられた。 
2 時間	学校の北	<ul style="list-style-type: none"> ●小坂方面の文化施設の多い地区の探検をする。 (文化・芸術コース) 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊田市の文化の中心ともいえる美術館や市民文化会館を見学し、恵まれた環境にあることを実感できた。 
2 時間	学校の南	<ul style="list-style-type: none"> ●御幸町方面の田畑の多い地区の探検をする。 (田・畑コース) 	 <p>△南方面には田畑が多いね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学区の南方面に広がる田園地帯を散策し、まだまだ自然の豊かな環境にあることを再認識できた。

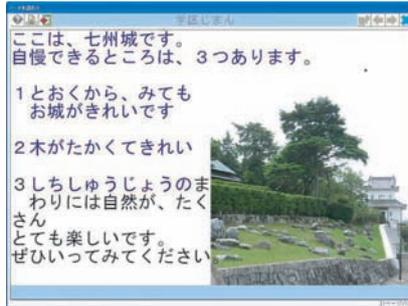
	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	学校の西	<ul style="list-style-type: none"> ●朝日ヶ丘方面の住宅の多い地区の探検をする。 (住宅コース) 	 <p>△西方面は住宅が集まっているね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の西方面には、自分たちや学区の人たちが住む住宅がたくさんあることを確認できた。
2 時間	学区全体	<ul style="list-style-type: none"> ●一番自慢したい地区に、引率ボランティアと共に出かけ、各グループ毎に自慢できる場所とその内容を詳しく調査する。 	 <p>△もう一度、調査に出かけよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループに分かれ、探検計画に沿って、一番自慢できる地域を詳しく調査した。 ○課題設定能力、コミュニケーション能力、問題解決能力を高めることができた。
1 時間	3年 ワークスペース	<ul style="list-style-type: none"> ●探検結果を報告し、お互いの童子山学区の自慢内容を紹介し合う。  	  <p>△シートにまとめて発表会をしました</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各自の感じている童子山学区の自慢内容を紹介し合うことで、友達のかえ方に共感する気持ちを高めることができた。 

児童の作品

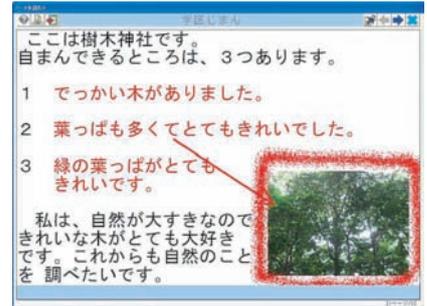
◎童子山学区の自慢をまとめ、作品を作りました



「しだれ公園のふん水」



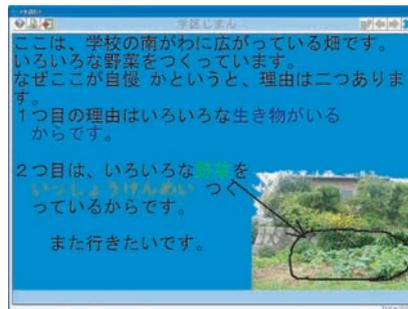
「七州城」



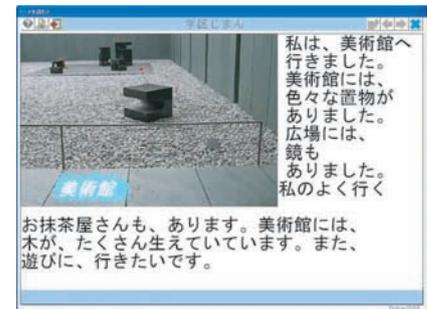
「樹木神社」



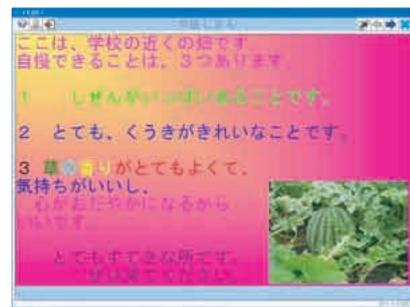
「七州城」



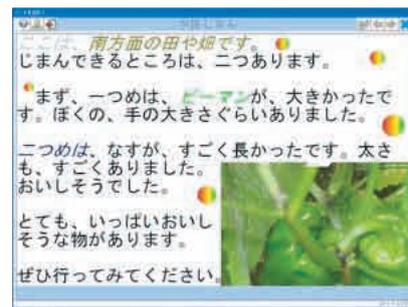
「学校の南側に広がっている畑」



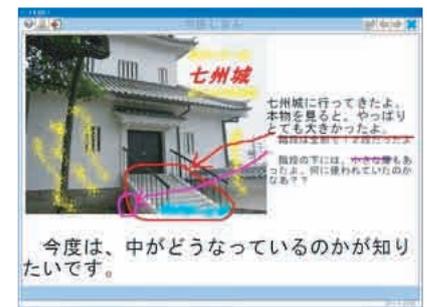
「美術館」



「学校の近くの畑」



「南方面の田や畑」



「七州城」

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 自分たちの住む学区や地域の「顔」となるモノについて、あらかじめ指導者が下調べをし、実際に歩いてさがした。
- ボランティアで保護者に依頼し、探検を行った。(安全確保のため)
- 子供たちの自分のまちへの思いや愛着を深めることができた。また活動を通して子供たちのまとめる力や表現力、情報活用能力を高めることができた。

【児童の反応】

- 子供たちは、デジタルカメラなどで自分の調べたいものやさがしたいものを熱心に写したり、絵にまとめたりすることができ、楽しく活動できた。

【教師の変化】

- 地域や学区の様子、歴史について理解を深め、地域素材の教材化を図るようになった。

12

宮崎県

日南市立油津小学校

- 実施学年 : 5年
- 児童数 : 71人(2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 17時間

実施 / 参照
プログラム

No. 08

わたしたちのまちに言葉の贈りもの



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 班ごとに撮ったまちの写真を組み合わせて、意見を添えて住みたいまちを表現し、それを紹介する展覧会を開く。

学習活動

1. 学習の計画を立てる。
2. 自分たちの住んでいるまちを歩き、参考にする風景を撮影する。
3. 写真にコメントを付けて、住みたい理想のまちマップを作る。
4. マップを持ち寄り、紹介し合う。

準備品

- 市街地地図
- レンズ付きフィルム
- ワークシート

実施場所

- 校区内

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	総合的な 学習室	<ul style="list-style-type: none"> ●学習のねらいを確認し、学習の計画を立てる。 ●取材の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グルーピング ・取材地域の選定等 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを教師の説明により、確認した。 ○取材班の編成や取材場所について話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○カメラを使った学習ができるということもあって児童は、活動に興味をもっていた。
4 時間	油津商店街	<ul style="list-style-type: none"> ●取材に出かける。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真を撮る ・インタビューをする ・コメントを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○商店街や海岸、漁港など自分たちが住んでいるまちを尋ねて、気に入った景色、建物などを写真に撮る。 ○校区内を5つに分けて、各グループで取材をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○商店の入り口や町並みなどを班ごとに観察しながら、写真を撮ったり、インタビューをしたりするなど意欲的に活動した。
2 時間	各学級等	<ul style="list-style-type: none"> ●資料をまとめる準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・使いたい写真やコメントを考える ・マップの構成 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ内で、それぞれが撮った写真の中から、マップづくりに活用する写真を選んだ。また、マップにそえるコメントを書いたり、自分の頭の中で思い描いている理想のまちを絵に描いたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○撮り貯めた写真を並べて、テーマに合う写真を選んだり、それに対応したコメントを書いたりしていた。

8時間

2時間

場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
<p>体育館</p>	<p>●マップづくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップの構成に基づいて写真を置く。 ・理想とする道や建物などを書き加える。 ・コメントを修正する  <p>●発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担 ・リハーサル 	<p>○グループ毎に、模造紙を2枚使い、大型マップを作成した。</p>   <p>○発表の役割や発表原稿を確認した。</p>	<p>○住みたいまちのイメージをどう表現すればよいか、戸惑っている児童もいたが、少しずつ形になっていくにつれて、楽しさを感じ、熱心に取り組んでいた。</p>
<p>体育館</p>	<p>●発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・質疑応答  <p>●学習のまとめをする。</p>	<p>○まとめたマップを提示しながら、発表を行い、質問に答えた。</p>  	<p>○できあがったマップについて工夫したところや自分たちの思いを意欲的に発表し、それぞれに対する質問等も積極的に出していた。</p>

児童の作品

◎写真に意見を添えて、住みたいまちの理想のマップをつくりました



先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 地区を5つに分けることで、グループで地区全てを回ることができた。グループ毎にカメラを渡したことで、自分たちが理想とする景色や建物等を大変意欲的に探すことができた。
- 取材では、学年担当教諭だけでは引率者が足りなかったため、教頭先生をはじめ、他学年の先生方にも協力してもらった。
- まとめについて、具体的なマップの全体像を提示することで、児童にイメージをもたせやすくした。
- 主に学年単位で活動したので、時間割等の調整で苦労した。

【児童の反応】

- 自分たちが普段生活しているまちを、自分の足で歩いたことで、改めてふるさとの良さに気付くことができたようだ。
- 単元全体を通して、児童の主体的な学習活動が見られ、楽しみながらいろいろなことを学ばせることができた。

【教師の変化】

- 校区内のまちの景観について、これまで以上に知るきっかけになった。
- 初めて通る道があったり、初めて見る建物があったりするなど、児童に道案内をしてもらいながら校区内を隅々まで知ることができた。

13

宮崎県 宮崎市立赤江小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 144人(4学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 9時間

実施 / 参照
プログラム

No. 08

わたしたちのまちに言葉の贈りもの



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 自分たちのまちを写真に収める学習を通して、まちのよさや人々の交流、残されている自然の美しさなどを再発見し、まちの景観はそうした人々の生活が一体となって構成されていることに気付く。
- 撮った写真をグループやクラスで並べて、住みたいまちを表現することで、自分たちのまちに対する考えを発信することや表現方法を学ぶ。

学習活動

1. オリエンテーション「景観学習について」
2. テーマ設定
3. フィールド活動（テーマに合った写真を撮る）
4. 写真選定（テーマに合った写真を選び説明を加える）
5. 写真展及び発表会

準備品

- 資料「景観について」（宮崎市都市景観課制作）
- デジタルカメラ（学校所有10台、宮崎市都市景観課から7台借用）

実施場所

- パソコン室及び教室
- 校外（校区内）

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	パソコン室 ◇宮崎市都市 景観課の協力	1. オリエンテーション学習 【目標】 ●景観学習について理解し、学 習への見通しをもつ。 【内容】 ①宮崎市都市景観課の方のお話。 ②学習の意図や意義について の話。	 △都市景観課の方からの説明	○宮崎市都市景観課の方のお話からは、「景観」には、見方やとらえ方によっていろいろな印象があることを知り、併せて身近な景観に関心を持つことの大切さや楽しさを理解していた。 ○実際に自分たちで校外に出て、写真を撮るといった活動に意欲をもった。
2 時間	パソコン室 ◇宮崎市都市 景観課が参観	2. テーマ設定 【目標】 ●どんな写真を撮りたいか自分 たちでテーマ設定することができる。 【内容】(①②で1時間・③で1時間) ①住みたいまちをイメージする キーワードを選ぶ。 ②グループを作り、住みたい まちのテーマを文や図で表す。 ③写真の撮り方や注意点を理解 する。	 △テーマ設定の様子	○住みたいまちをイメージするキーワードを選ぶことで、どんな写真を撮りたいか具体的にイメージを持つことができた。 ○自分の住みたいまちのテーマを発表し合うことで、地域の景観について考えることができた。 ○テーマを上手に写真化するポイントや写真を撮る喜びについて理解できた。
2 時間	校外 ◇宮崎市都市 景観課が引率 の協力	3. フィールド活動 【目標】 ●自分たちの決めたテーマの写 真を撮ることができる。 【内容】 ①グループのテーマにあう写真 を撮りに行く。 ※引率とデジタルカメラの確 保数から、学年を2つに分 け、異なる日に実施。	   △フィールド活動の様子	○最初に実施した2学級では、自分たちのテーマにあうと感じた場所をどんどん撮影するグループ(児童)と考えすぎで撮影に慎重になるグループ(児童)との差が見られた。 ○後半の2学級で、景観を見たときの直感で撮影することの大切さを伝え、どのグループ(児童)も撮影が良好であった。 ○撮影を通して、地域の方と言葉を交わす等、コミュニケーション力がついた。

2時間

パソコン室
各教室

4. 写真選定

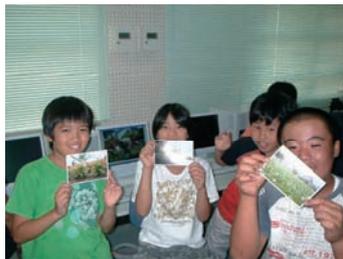
【目標】

- 自分たちのテーマにあった写真を選ぶことができる。
- 写真に言葉を添えて、テーマを分かりやすく表現することができる。

【内容】

- ①写真を選び、プリントアウトする。
- ②写真に説明文を加える。

活動記録



△プリントアウトの様子

対象者の反応

- 自分たちのとった写真をプリントアウトする活動はとても意欲的であった。また、テーマと写真の整合性を文で表現する活動にも、グループで意見を出し合いながら熱心に行った。

2時間

パソコン室
◇宮崎市都市
景観課が参観

5. 写真展及び発表会

【目標】

- 住みたいまちの写真の説明し発表することができる。

【内容】

- ①自分たちのテーマを表現した写真の説明を行う。
- ②ギャラリーに展示してある各グループの写真を見合って感想をもつ。
- ③景観学習のふり返しを行う。
 - 景観学習を通して
 - ・分かったこと
 - ・考えたこと
 - ・楽しかったこと
 - 都市景観課の方のお話
 - ・講評
 - ・お願い



△都市景観課の方からの講評



△発表会の様子



△展示コーナー・ギャラリー

- テーマと写真の整合性を上手に発表できた。時間の都合上、全てのグループの発表には至らなかったが、各学級での発表と展示で自分たちの想いを表現できた。
- 友だちの発表を聞いたり、写真を見たりすることで、住みたいまちのテーマの多様性や同じテーマでもいろいろな場所が地域にあることに気付いた。
- 景観学習のふり返しでは、地域に出て写真を撮ることの楽しさやその活動を通して地域には色々な景観があることに気付くことができた。また、景観を維持していくことの大切さも理解できた。

児童の作品

◎住みたいまちのテーマに合った写真を撮影し、 文章で表現しました



「雨にあう街」
むらさきのあじさいが満開にさいていて、ところどころにうすむらさきや白いあじさいがさいていて、とてもきれいだと思ったのでシャッターをおしました。



「環境にやさしい」
この写真は毎日、朝おじさんがそうじをしているみぞです。この写真をとった理由はいつもこんなきれいなまちになってほしいと思ったからです。



「自然、豊か」
人が写っているのと、家が写っているのが、空とすっごく合いました。花（シロツメグサ）がいっぱいあって、シロツメグサと草が混ざっている所がいいなあ〜と思いました。



「塀を彩る紫陽花」
家の塀からひっそりと紫陽花が立っていて、雨のじめじめした風景にこの紫陽花があることで、雨の中の美しさを見つけることができました。

(※児童の作品から抜粋して紹介)

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- オリエンテーション学習を行い、景観学習への動機付けと意欲向上を図った。
- 宮崎市都市景観課と連携して、「景観」についての説明や、カメラ等の機器の借用、校外学習の引率補助を受けた。
- 児童の作品（60 作品）を額に装填し、校内ギャラリーに展示を行った。11 月には、地区交流センターでの作品展で展示を実施した。
- デジタルカメラの確保と、校外施設での展示会での展示場所の確保に苦労した。
- 屋外のプログラムでは、天候に左右されることが大いにある。

【児童の反応】

- 「景観」には見方、感じ方でいろいろな印象があることを知ることができた。
- 普段目にしていない登下校路や近所の風景から、それまで気付かなかった景観のよさや他の地域との違いに気付くことができた。
- 自分たちのまちに対する将来像をもつことができた。

◇児童のふり返り文から抜粋◇

- グループ学習をしている間にそれまで話をしなかった人と仲良くなった。
- 地域のすてきな風景がたくさん見つけて、撮影した。
- 宮崎市の都市景観課の仕事の内容も分かった。
- 街の風景をテーマに合わせて写真で表すことは難しかったけど、後で写真を見たら、未来にもこの風景があるといいなあと思った。

【教師の変化】

- 「景観づくり」をテーマにした学習プログラムの存在を知り、総合的な学習の地域学習として有効な学習プログラムであると感じた。
- 「景観づくり」を通して、地域との関わりを深めることに気付いた。
- 児童の写真からテーマとの整合性や感性の高さに驚かされた。
- 子どもたちの体験学習の手だてとして新しい手法を学ぶ機会となってよかった。

関連情報

●授業が新聞で紹介されました

景観まちづくり学習が、新聞（「宮崎日日新聞」2007年7月21日）の記事になりました。『地域景観を見直す 赤江小でまちづくり学習』というタイトルで、発表会の様子が紹介されました。



14

茨城県 行方市立羽生小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 19人(1学級)
- 実施教科等 : 社会・総合学習
- 実施時間数 : 12時間

実施 / 参照
プログラム

No. 09

思い出いっぱいわたしたちのみち



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 子ども達が、6年間通ったみちから風景と心のつながりに気づき、様々な思い出とともに心に豊かさをもたらしてくれる風景を大切にしていこうという気持ちをもつことができる。
- 社会や自然と自分の関わりに関心を持ち、自らの課題を解決することができる。
- 地域の方やゲストティーチャーとの交流を通して、郷土を愛する心を培うとともに、自ら学んでいく力を養うことができる。
- 子ども達が、豊かな五感を働かせ、地域を再発見する喜びを味わおうとすることができる。

学習活動

- 6年間通ったみちで、どんな思い出があったのか、また好きな場所はどこかを話し合う。[1]
- 各自思い出に残る場所を撮影する。[2・3]
- 写真それぞれに思い出のタイトルとストーリーを書き、発表用紙にまとめる。[4・5]
- 発表の練習をする。[6]
- 発表会を行い、ゲストティーチャーのアドバイスをもらう。[7・8]
- 行方台地の成り立ちについて知る。[9]
- 通学路に観る景観の歴史的な作用について知る。[10]
- ゲストティーチャーの外国生活体験の話から外国の景観について知る。[11]
- ゲストティーチャーの外国生活体験の話から外国の景観について知る。[12]

準備品

- 「風景」についての発表用紙
- いろいろな景観の絵
- コンピュータ
- プロジェクター
- スライド
- ワークシート

実施場所

- 教室
- 登下校の道
- 音楽室

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	教室	● 6年間に通った道で、思い出に残ることにはどんなことがあったか、好きな場所はどこかを話し合う。		○ 児童は、思い出に残る登下校のみちについて、自分の思い出を発表していた。
2 時間	教室 登下校の道	● 各自思い出に残るみちを撮影する。		○ 学校周辺や登下校のみちを意欲的に撮影していた。
2 時間	教室	● 自分の撮影してきた写真に思い出のタイトルとストーリーを書き、発表用紙にまとめる。		○ 友達に理解できるように分かりやすく丁寧にまとめた。
1 時間	教室 音楽室	● 「思い出に残る私達のみち」について発表会の練習を行う。		○ 児童は、聞いている友達にわかりやすいように大きな声でゆっくり発表していた。
2 時間	教室	● 「思い出に残る私達のみち」について発表会を行い、ゲストティーチャーからアドバイスをもらう。	  	○ 友達の発表やゲストティーチャーの話を聞きながら景観について理解したり、思い出に残る自分のみちについて比較したりすることができた。

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	教室	● 景観の基礎でもある羽生小地区の周辺の行方台地がどのようにできたのか、ゲストティーチャーの説明を受けながら学習する。		○ 行方台地が、昔、海の底であり、氷河期や温暖な気候によって、今の地形ができたことに興味を示していた。
1時間	教室	● 羽生小の通学路に観る景観の歴史的な作用について、自分達が撮影した写真や昔の地名が載っている自宅の場所の地図を使って確認する。	   	○ 昔の地名から、どのような景観だったのか想像したり、自分達が住んでいる地区についての歴史を理解したりしていた。
1時間	音楽室	● ゲストティーチャーの外国生活体験の話から、ポルトガルの景観について学習する。	 	○ ポルトガルと自分達の住んでいる地区の景観の相違について興味を示していた。
1時間	音楽室	● ゲストティーチャーの植林活動の話から、中国にある内モンゴル自治区の景観について学習する。	 	○ 中国にある内モンゴル自治区と自分達の住んでいる地区の景観の相違について興味を示していた。

児童の作品

◎思い出に残るみちの写真を撮影し、 タイトルとストーリーを書いてまとめました

思い出に残る線路、霞ヶ浦



六年間通ってきて、登校や下校の時、ずっと見てきた、鹿島鉄道の使われない線路、ここを見た時、色々な思い出が、たくさんうかんできます。

霞ヶ浦では、散歩に行ったり、魚つりをしたり船に乗って遊んだり、色々な思い出が、たくさんうかんできます。

すごく晴れている日は、筑波山が見えます。夕日が見えて、筑波山の、間のすきまに、真っ赤な夕日が見えて、私は、この場所がすごく気に入っています。

6年間たのしかったよ



私は、羽生小学校をとりました。なぜかという6年間も通った学校なので小学校の思い出にしようとおもいました。

6年間通った、羽生小学校は、私の思い出です。羽生小は、私たちの勉強するところでもあれば色々な活動をするところでもあれば、楽しく遊ぶところでもあります。休み時間みんなでも楽しく遊びました。なので、「6年間楽しかったよ。」というタイトルにしました。羽生小学校は、友達とたくさん仲良くふれあえる学校です。

楽しい道



キレイなので、この写真をとりました。そして、田んぼの近くで、遊んだりした思い出があるので、私は、この写真が、気に入っています。

この道は、私が毎日通っています。そして、帰りにそこを通ると、夕方なので霞ヶ浦にしずむ夕日が、うつりキレイだったので、とても思い出に残っています。それに、この近くで、友達とドブで、魚をとったり、遊んだりした楽しい思い出があり、私は、毎日この道を、通っています。

きれいな緑



この写真の空は、ちょっとだけもっているけど、晴れていると空も緑もキレイです！！ここから霞ヶ浦方面を見ると、筑波山が見えます！ラッキーな日には富士山も見えます！

思い出に残っていることは、私が小さいころ、お母さん・おばあちゃんと一緒にお散歩をしたことです！私はお散歩中、タンポポのくきで、笛(?)を作っていました。でも、なかなか音がならなくて、くやしかったです。でも、とても楽しい思い出です！

(※児童の作品から抜粋して紹介)

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 景観アドバイザーの方や NPO の方などにゲストティーチャーとして来ていただき、色々な角度から「景観」について学習した。
- 「景観」という言葉に、最初は難しいイメージであったが、景観アドバイザーの方の助言でとても意義のある活動ができた。
- ゲストティーチャーとの打合せや細かな調整を行うのが大変であった。

【児童の反応】

- とても身近な題材であり、どの児童も自分達の「みち」について6年間の思いが強く意欲をもって学習できた。
- 児童にとって身近で誰でもわかる道を扱ったので、とても興味をもって活動できた。景観から、環境問題や自分達の住んでいる「まち」について興味を示し、郷土を愛する気持ちを育むことができたと感じる。とても良い題材である。

【教師の変化】

- 総合学習の題材として今までマンネリ化していたため、とても新鮮に感じた。また、意欲的に活動する児童の様子を見て、またこの題材を利用したいと考えた。

関連情報

● 授業参観でも発表しました

授業参観の際に「思い出に残るわたしたちのみち」を保護者の方々の前で発表しました。保護者の方々にとっても新たな発見があったようです。



15

茨城県 桜川市立羽黒小学校

- 実施学年 : 5年
- 児童数 : 53人(2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 6時間

実施 / 参照
プログラム

No. 10

校歌の風景を見つめてみよう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 校歌に描かれている情景を知ることを通して、地域のよい景観を発見し、地域への愛着心を育て、まちの環境を大切にしようとする態度を育むことができる。
- 校歌に描かれている情景の場所を調べ、地域の特色を考えることができる。
- 自分の考えをまとめ、自分なりの表現方法で、友達や身近な人に伝えることができる。
- 地域のよさを知り、これからの学習に生かすことができる。

学習活動

1. 校歌に描かれている情景の場所を特定する。
2. 情景の場所に行き、その特色を調べ記録する。
3. 地域のよさを知り、それを自分なりの表現方法でまとめ、友達や地域の人に伝える。
4. 調査や表現活動を通して、地域を大切にすることの意義を確認する。

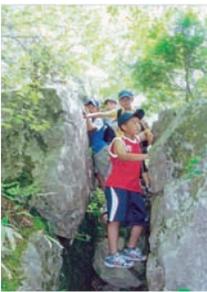
準備品

- 校歌
- 地域図
- デジタルカメラ、カメラ
- パソコン
- 郷土読本『桜川』
- 桜川市広報誌

実施場所

- 加波山、ますみが池、磯部神社、桜並木、山桜群生地
- 教室、視聴覚室、ワーキングルーム

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
0.5時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●趣旨説明 ●各自の学習課題設定 ●校歌の風景を選択しコースを決定する ●下記の3コース 校歌1番-加波山 校歌2番-ますみが池 校歌3番-桜川 ●地域探検の安全指導 ●家族や地域の人の協力を要請しておく。 	 <p>△コースごとに学習</p>  <p>△△グループ別探検活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○連休を利用して地域探検する計画を立てた。 ○地域探検の目的や方法についてグループで話し合っていた。
0.5時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●各自の課題をもとにグループ分けをする。 ●グループごとにより具体的なめあて、内容、方法等を決める。 ●新たな課題についての解決方法について話し合い具体的な活動計画を立てる。 ●課題解決のための調査、観察、情報収集、取材等をグループごとに進める。 	  <p>△グループ別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1学級7グループに分かれ活動計画を立てた。 ○連休中に調査活動したことをもとにグループごとに話し合っていた。 ○新たな課題が出たので、再度、調査活動するグループがあった。
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●各グループごとに各自持ち寄った資料や写真などを確認し、まとめ方について話し合う。 〔児童の考えたまとめ方〕 新聞、紙芝居、クイズ、模造紙等 ●グループごとに担当を決める。 〔例〕 問題づくり -A子 イラスト -B男 	 <p>△各自の資料をもとに話し合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループにより調査資料の軽重はあるが、それらをもとに工夫してまとめていた。 ○児童の得意な技能を生かしてまとめるときの担当を決めていた。

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●活動内容や調査結果をまとめる。 ●地域のよさや美しさが伝わるような表現の工夫をする。 ●「誰に伝えたいか」を意識して、まとめる事を指導した。 	 <p>△まとめ活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○紙芝居を仕上げた「ますみが池」グループは、続編に自然環境問題をテーマにした作品をつくっていた。
1 時間	教室、特別室	<ul style="list-style-type: none"> ●発表の練習やまとめの仕上げをする。 ●各グループで部屋を選び、発表の練習をする。 ●互いに発表を聞き合い、相互評価する。 (評価の観点) <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや発音 ・話す速度や間 ・発表態度 ・内容 ●発表後、修正、改善する 	 <p>△発表の練習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発表するときの声の大きさと速度など互いに確認しあった。 ○表現上の工夫の点から、イラストや写真なども加えていった。 ○クイズの問題が分かりにくいと言われたグループは、書き直しをしていた。 ○説明する時、具体物を見せた方が伝わると考えたグループもあった。
1 時間	ワーキングルーム	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者や市役所の方々にも参加していただき発表会を開く。 ●各グループは交代で発表し、発表や聞かときのポイントを押しさえる。 ●これまでの学習をふり返し、今後自分のできることを考え作文を書く。 ●一連の活動の自己評価、相互評価をする。 	  <p>△発表会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に発表し、聞か方も積極的に質問していた。 ○友だちと協力し合い楽しく活動できたという反省が出た。 ○本校の創立記念日である6月20日も近く愛校心や愛郷心が芽生えてきた。

児童の作品

◎各自の学習成果をまとめました (児童のポートフォリオから抜粋)



校歌にうたわれた加波山の絵



調べた資料 (桜川のサクラの歴史、桜川をうたった和歌等)

授業の感想

項目	内容
名前	山本 悠斗
学年	5年
担当	山本 悠斗
学習の振り返り	クイズや紙しばい、もぞうしをやりました。紙しばいを読むのが、むずかしかったです。
感想	クイズは、問題をかんがえるのがむずかしかったです。でも、おもしろかったです。

学習のまとめ

○クイズや、紙しばい、もぞうしをやりました。紙しばいを読むのが、むずかしかったです。
○クイズは、問題をかんがえるのがむずかしかったです。でも、おもしろかったです。

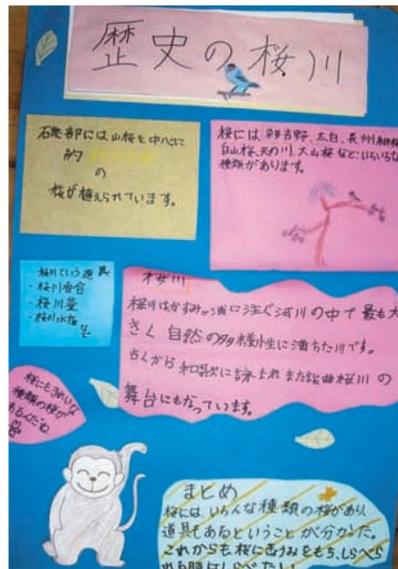
◎各自の学習成果を持ち寄り、発表に向けてグループでまとめました



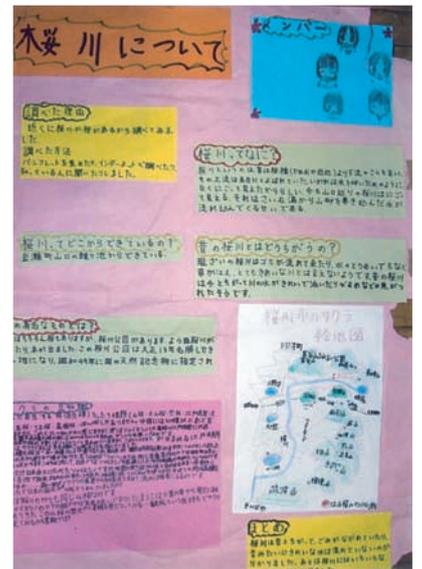
紙芝居にまとめました



模造紙にまとめました



グループでのまとめを掲示しました



先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 保護者の理解や協力を得て休日に地域探検や情報収集を安全に実施した。
- ねらいを生かし児童の発想をふくらませて多様な表現方法でまとめ、発表させることができた。
- 社会科の既習学習を確認し、郷土読本を改めて読み直したりすることにより、学習課題が明確になった。

【児童の反応】

- 休日に保護者や友達と地域探検や情報収集をし、それらをまとめ発表することに大きな喜びを感じていた。
- 校歌は児童の一番なじみのある歌で、身近な風景をうたっているの、焦点化して活動できた。児童にとっても理解しやすい題材であった。
- 発表会を保護者や市役所の方々に参加していただくことにより、児童は意欲的に発表できた。

【教師の変化】

- 教室の窓から見える加波山への愛着が一層高まり、郷土学習指導の自信につながった。

16

香川県 香川大学教育学部附属高松小学校

- 実施学年 : 4年
- 児童数 : 38人(1学級)
- 実施教科等 : 社会・総合学習
- 実施時間数 : 8時間

実施 / 参照
プログラム

No. 11

地域景観プランナーになろう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 場所によって、地域・自然・景観のよさが異なることに気づく。
- 自分の暮らす地域と、訪れた場所の地域・自然・景観との違いに気づく。
- 自分のまち（地域）のよさについて、教室の児童の考え方や見方に違いがあることを知る。
- 情報収集能力を身につけ、情報を効果的に伝えていく方法を体験する。
- まちのよさを活かしていくために必要なことを話し合う。

学習活動

- [1・2時間目]
- インターネットや社会科の副読本「わたしたちの高松」などをもとに、情報収集を行う。見学の時に、必ず確認しておくものを取材ノートに書き込む。
- [3・4時間目]
- 現地で、昔を今に伝えるものや産業、人々のようすなどを中心に調べる。インタビュー等も行う。
- [5・6時間目]
- 調べをもとに、高松歴史マップをつくり、発表する。これから訪れる人々のために、各自で回る1日のおすすめコースを企画する。
- [7・8時間目]
- コースを3つに分け、小グループごとに、コースガイドとしてのパンフレットを作成し、グループごとに概要を紹介する。
 - ・玉藻城コース
 - ・城下に残る歴史コース
 - ・城下に残る産業コース

準備品

- 取材ワークシート
- 高松市白地図
- 絵カードの枠
- パンフレットの枠
- デジタルカメラ

実施場所

- 多目的ホール
- 調べる地域
- コンピュータ室

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
2 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットの資料や社会科の地域の副読本「わたしたちの高松」などをもとに、情報収集を行う。見学の時に、必ず確認しておくものを取材シートに書き込む。 		<ul style="list-style-type: none"> ○地域の副読本「わたしたちの高松」は、全員持っているため、共通の教材となった。その他に、総合的な学習の時間等を活用して、パソコン室で情報を収集したり、休日に図書館等で本を借りたりして、この時間学習する準備を行った。子どもたちは、自分の興味のあるものから調べを行っていった。授業の終わりには、取材シートに、大まかな見学コースを立てることができたが、興味・関心、資料の準備に個人差が大きく、かなりの支援が必要であった。
2 時間	市街地	<ul style="list-style-type: none"> ●現地で、昔を今に伝えるものや産業、人々のようすなどを中心に調べる。インタビュー等も行う。ファイルに記録し、調査内容を整理する。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ○前時考えたコースをもとに、自分たちでまちを歩いた。2時間という時間の中であったので、歩ける範囲は限られている。短時間で多くの場所を要領よく回らなければならなかった。その結果、1ヶ所に滞在する時間が短く、丁寧な観察や記録を行うことが難しかった。 ○また、いくら手元に地図はあるとはいえ、自分勝手に行くことができなかったため、クラス全員での行動になり、自分で考えたコースに行くことのできない子も出てきた。教師は、見学を通して、しっかり記録することを期待していたが、子どもたちにとっては、いろいろなものを見たり、さわったりすることが楽しかったようである。しかし、その体験は、豊かな表現として、言語の中に生きてきている。

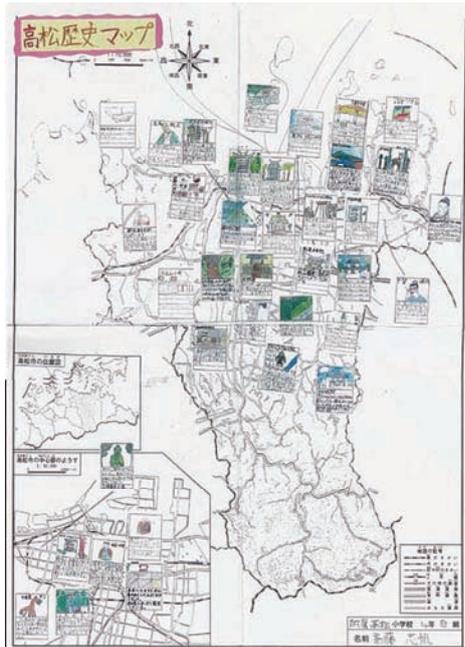
2 時間

場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
<p>教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●調べをもとに、高松歴史マップをつくり、発表する。 ●これから訪れる人々のために、各自で回る1日のおすすめコースを企画する。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちは、見学をもとにして、左のようなカードをつくった。そして、それを使って大きな絵地図を完成させた。 ○絵地図や前の時間の見学カードなどをもとに、各自で、おすすめコースを考えた。コースの設定にあたっては、そのコースについての内容が、確かな内容につながるよう、教師が支援を行った。コースが考えられた児童については、その見学地について、詳しく調べていくようにした。 ○大きな絵地図だけでは、子供の手元に表現物が残らないため、別の時間を活用して、自分のマップをつくっていった。 
<p>教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コースを3つに分け、小グループごとに、コースガイドとしてのパンフレットを作成し、グループごとに概要を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・玉藻城コース ・城下に残る歴史コース ・城下に残る産業コース 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちは、自分が設定したコースについて紹介するパンフレットを作成していった。事前に資料等を集めるように伝えておいた。 ○パンフレットをつくる際には、自分が調べてきた資料を切り取って活用する児童も見られ、内容の充実と時間の短縮につながった。出来上がったところまでで、3グループの児童によるグループエンカウンターを行い、自分たちの住む地域への理解を深めた。

2 時間

児童の作品

◎調べたことをもとに「高松歴史マップ」を作製しました



◎訪れる人々のために各自で回る 1日おすすりめコースを企画しました

「城下に残る歴史コース」パンフレット



城下町に残る歴史を
紹介します！

◎学習の発展として社会科で讃岐漆器についてまとめました



先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 総合的な学習単独でするのもいいが、本単元は、4年生の社会科の学習と深く結びついている単元であり、できるだけその関連を図るようにした。そうすることで、お互いの学習の内容を深めていくことができた。
- 総合的な学習は、場当たりの単発の学習ではなく、現代の教育課題や学校課題に対応するために、その学校独自のカリキュラムがつくられている。今回のプログラムを実施するにあたって、本校の総合的な学習の時間に、どうこのモデルプログラムを重ねていくかが一番苦労した。

【児童の反応】

- 子どもたちは、学校外でいろいろな見学をするのが大好きである。だから、本単元でも、見学などについては、意欲が高かった。また、調べたことを表現することも好むため、ガイドマップづくりには大変意欲的であった。

【教師の変化】

- 地域の魅力を紹介するためには、まず、教師自身が地域を歩き教材研究することが大切になる。自然や歴史のよさが、何を調べることで浮き彫りになるかを、学習に入る前に明らかにしておく必要がある。今回、本題材を実施するにあたり、地域教材の掘り起こしをすることができたことは成果であった。

17

福島県

いわき市立中央台東小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 70人(2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 8時間

実施 / 参照
プログラム

No. 11

地域景観プランナーになろう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 場所によって地域・自然・景観のよさが異なることに気づく。
- 自分の暮らす地域と、他の場所の地域・自然・景観との違いを知る。
- 自分のまち（地域）のよさについて、友達の考え方や見方に違いがあることを知る。
- 情報収集能力を身につけ、情報を効果的に伝えていく方法を体験する。
- まちのよさを活かしていくために必要なことを話し合う。

学習活動

- まち（地域）の地理的な特徴、どこにどういう種類の建物が建っているか、どこに道路が通っているか、まち並みの様子を調べ、まち（地域）の特色を考える。
- UR 都市機構（まちづくりプランナー）やまちの人々の話を聞き、まちづくりの工夫や苦労、景観のよさを保つための努力に気づく。
- まち（地域）を観察し、素材のよさや美しさなどに関心を持つとともに、それらに対する感覚などを高めるようにする。
- 造形的な表現力を働かせながら、自らつくり出す喜びを味わい、さまざまな表し方、見方に触れ、創造的に表現する。
- 学習の流れ：①事前に調べるところのイメージをつくる、②調べる場所の魅力、地域の人々の考えを探る、③調べた場所について整理し、魅力的なポイントの共有化を図る、④まち（地域）の魅力を伝えるためにパンフレットをつくる。

準備品

- デジタルカメラ（各グループ1台）
- 記録用紙
- コンピュータ
- 地域図
- プロジェクター

実施場所

- 多目的ホール
- 調べる地域
- コンピュータ室

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	多目的 ホール	<ul style="list-style-type: none"> ●情報収集などの調査計画活動を楽しみながら意欲的に取り組み地域に関心を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・景観の意味を知り、自分たちの住む地域と他地域の違いに気づく。 ・調べてみたい観点をもとに、グループで調査計画シートを作成する。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童は、「景観」という言葉についての意味を理解していなかったため、まずは、景観の意味のとらえが必要であった。 ○自分たちの住む地域環境をあたり前に思っていた子どもたちであったが、他地域と比べることにより他地域にはないすばらしさがありもっと調べてみたいと思う意欲を持って、積極的に調査計画を立てていた。
2 時間	学校周辺の 地域	<ul style="list-style-type: none"> ●活動を通して得た課題や知識を自分の課題に生かす。 <ul style="list-style-type: none"> ・調査観点をもとに、地域の景観について実地踏査する。 ・自分の感想を整理する。 ・取材シートに調査内容を整理する。 ・撮ってきた写真の整理をする。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ○調査観点別グループにおいて、他地域にはない景観のよさを中心に、デジタルカメラに収めたり、シートにメモしたりして調査を進めた。 ○公園から眺めた家並みの美しさ、色や素材・デザイン等の工夫に気がつく、喜んで歓声を上げる姿も見られた。 ○地域の区長さんや草木の手入れをしている人々等に積極的にインタビューし、景観に対する思い、工夫・苦労等の話を聞いていた。
2 時間	多目的 ホール	<ul style="list-style-type: none"> ●活動を通して得た情報や知識をもとにして、地域よさを見出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら調べたり、体験したりしたことを踏まえ、自分たちの住む場所の魅力や問題点を整理する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○撮ってきた写真やメモを見ながら、みんなに知らせたい地域の魅力について話し合った。 ○魅力だけでなく、改善したい点にも気づき、取り上げているグループもあった。

場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
<p>コンピ ュータ ルーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> みんなにわかりやすく伝わるよう情報や調査のまとめをコンピュータを使って整理し、発表の準備をする。 		<ul style="list-style-type: none"> 友達と役割を分担しながら写真を選択したり、コンピュータを使ってまとめた。 コンピュータでのまとめだけでは伝えられない情報を「発見情報」としてシートに書き入れていた。
<p>多目的 ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表することで情報の共有化を図り、パンフレットを作るための材料を集める。 UR 都市機構（まちづくりプランナー）の方の話を聞き、自分たちの調べたことを見直したり考えたりしたことをさらに深める。 <p>プレゼンでは伝えきれない情報を「発見情報」という形で A4 版にまとめ掲示しました ▶</p>	  	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループで調べたことを発表し、自分たちが調べなかった観点についても知ることで、地域全体の景観の魅力を把握することができた。 また、その景観をつくり、維持するための多くの人々の工夫や苦労についても気づくことができた。 ゲストティーチャーの専門的な話により、なぜそのような景観になっているか等について知ったり、考えを深めたりすることができた。
<p>教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや気づいたことを、わかりやすく効果的にまとめる。 自分たちの住む地域の魅力の紹介・案内としてのパンフレットやチラシ等を作成、紹介する。 	  <p>△「中央台・景観・マップ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の授業を踏まえ、自分の伝えたいテーマ、対象者を決め、パンフレット作りに取り組んだ。「自然豊かな中央台へようこそ」「高久の緑を見に行こう」「中央台おすすめスポット」等、思い思いの趣向をこらしてパンフレットを作っていた。

2 時間

1 時間

児童の作品

◎自分たちの住む地域の魅力を紹介・案内するパンフレット・チラシを作製しました



△「中央台のオススメスポット in 高久」



△「中央台のオススメスポット」

◎図工の時間には「見つけたよ、わたしの町のこの景色」の単元において地域の魅力を絵で表現しました



△「きれいな道」



△「たくさんの緑」



△「マンモス公園」



△「緑の道」

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 子どもたちは「景観」の意味が分からなかったため、1時間目に、自然の美しい地域や歴史的建造物が残る地域等の映像を映しながら、景観の意味をとらえさせた。
- 調べた情報を共有化し、より全体の景観のよさをとらえるために、コンピュータを利用して発表し、話し合いを持った。
- 自分たちの地域を調べたことで、遠くに行って調べることもなく最低限の調査時間で調べることができた。
- 下学年からの継続的な学習によりコンピュータリテラシーを十分に持っている状態でコンピュータでの発表の準備を進められた。
- 総時間数8時間での学習は余裕がなく、厳しいものがあった。

【児童の反応】

- 景観の意味が分かり、自分たちの住む地域にも美しい景観が多くありそうだとということがわかると、大変意欲的に計画を立て、調査活動を始めた。
- 自分たちの住む地域を取り上げたことで、景観というものをより身近に感じられたようだった。もっと美しい地域にしたい、さらによくしたいと言った感想も多く聞かれ、地域に対する愛着も芽生えた様子であった。

【教師の変化】

- 実際に地域を歩いたり、ゲストティーチャーとの話し合いを持つ等、学年で教材研究に取り組んだ。子どもの目線になって教材研究を進めたことが生かされ、生き生きとした子どもの活動が見られた。
- 子どもたちの住む学区のよさを、指導者側も改めて認識することができた。

関連情報



●研究授業が開催されました

発表の時間は公開授業として行われ、行政の景観担当職員や、市内の小・中学校の先生方が見学されました。授業の後には事後研究が行われ、景観まちづくり学習についての意見交換が行われました。

●研究授業が新聞3紙で紹介されました

研究授業の様子が、「読賣新聞（2007年7月7日）」、「福島民友（2007年6月29日）」、「いわき民報（2007年6月29日夕刊）」で紹介されました。各紙では、これまでの取り組みや、児童の声などが紹介されています。 福島民友の記事▶



18

茨城県 桜川市立羽黒小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 57人 (2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 8時間

実施 / 参照
プログラム

No. 11

地域景観プランナーになろう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 場所によって地域・自然・景観のよさが異なることに気づく。
- 自分のまち（地域）のよさについて、考え方や見方に違いがあることを知る。
- 情報収集能力を身につけ、情報を効果的に伝えていく方法を体験する。
- まちの良さを活かしていくために必要なことを話し合う。

学習活動

1. まち（地域）の地理的な特徴、どこにどのような種類の建物が建っているか、どこに農地があり何をつくっているか、道路や鉄道がどこを通っているか、まち並みなどの様子を調べ、まち（地域）の特色を考える。
2. まち（地域）の発展のために昔の人が努力したことを知り、当時の人たちの工夫や苦勞に気づき、昔の人の努力が、今のまち（地域）にも残っている場所を見つける。
3. まち（地域）を観察し、素材の良さや美しさなどに関心を持つとともに、それらに対する感覚などを高めるようにする。
4. 造形的な表現力を働かせながら、自ら作り出す喜びを味わい、さまざまな現し方、見方に触れ、創造的に表現する。

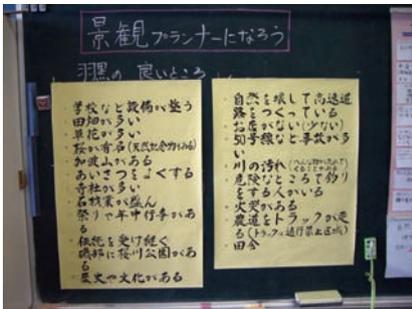
準備品

- デジタルカメラまたはレンズ付きフィルム（各グループに1台）
- 地域図

実施場所

- 教室
- パソコン室

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●訪れる地域・自然・景観はどんなところか、そこで人々はどのように暮らしているのか等を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問場所について知っていることを話し合う。 ○確認したいことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「景観」とは何か、とまどっているようである。 ○思いつくままに場所を書き出していた。
2 時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●調べたり体験したりする中で、おもしろい、つまらないと感じたことは何か、その理由は何か、些細なことでも興味を惹いたことはないか等を考える。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えた場所を出し合うことで、自分では気付かなかった場所に気がついた。 ○「景観」について何となく理解できてきたようである。 ○パソコンを使って調べることが楽しくできた。しかし、調べていくうちに情報量が少ないことに悩む子ができた。
	パソコン室	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が感じる魅力を地元の人も感じているのか、地元の人々の思いを聞く。 	 	

場所

概要

活動記録

対象者の反応

4時間

教室

- コースのねらい、対象者、対象のニーズ、地域への貢献、具体的なコース、体験内容、時間配分など、コースの企画をする。



- 集めた資料の、図や写真を貼ったり、地図を描く作業が楽しくできた。
- 地図を描くのに苦労していた。

1時間

教室

- 制作したものを評価する。



- 他の人の作品紹介を聞いたり、作品を見たりすることで見慣れた風景が、すばらしい景色であり、それに気づかずにいた自分に気づくことができた。

児童の作品

◎まちの魅力を一日で味わえる“おすすめコース”を考え、コースガイドを作成しました

▼ガイド用! じまんの羽黒



▼梨畑ガイド 羽黒の梨はおいしいよ



先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 単に「まち発見」に終わるのではなく、より魅力的にするためにどういことをしたらよいか計画させてみた。
- 「景観」を子どもたちにどう伝えさせるか、教師がどう押さえ、子どもに伝え導くかに苦労した。
- ピントが絞りにくいので、他の地域と比較したりすることで、そのよさや問題点に気づかせるようにした。

【児童の反応】

- 普段何気なく見て、見過ごしてしまうような所の良さに気づくことができた。
- 「景観」というより「故郷」再発見の感覚が強くなっていった。

【教師の変化】

- 自分の学区についてさらに深く知ることができた。

関連情報

●授業が新聞と市広報誌で紹介されました

茨城新聞の「歴史と伝統の街並み」という連載記事の中で、「子供たちのまちづくり」と題して、羽黒小学校の景観まちづくり学習の取り組みが紹介されました（2007年8月9日）。[写真左]
また、市広報誌「さくらがわ」（2007.9.1）でも、「桜川市の景観づくり」という記事で、羽黒小学校の授業の様子が紹介されました。[写真右]



19

愛知県

小坂井町立小坂井西小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 108人(3学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 9時間

実施 / 参照
プログラム

- No.01 ひそんでいるぞ! カオ・かお・顔
- No.02 これはどこだ? 探してみようまちパーツ
- No.03 よくよく見れば、あの場所に



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 見ることから観ることへとつなげるために、普段見慣れた景観に、遊びの要素を取り入れた活動を展開し、まちを構成する素材のよさやおもしろさに関心をもたせる。

学習活動

1. 出会う：無意識のまま眺めている景観の中にさまざまな表情があることを知る。(素材との出会い)
2. つくる：担当する地域にあるおもしろいと感じたモノや素材の写真を撮り、問題をつくる。
3. さがす：校内にあるモノの中からカオにみえる部分を見つけ、写真を撮る。
他の班が写したモノの場所とそのモノ自体をさがす。
4. 気づく：さまざまな素材に囲まれて生活していることに気づく。

準備品

- デジタルカメラ (各グループに1台)
- プリンタ
- 写真を貼るための台紙
- 地域の白地図
- 探検バック・筆記用具

実施場所

- 教室
- 学校内
- 学区域

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	三河緑地	<ul style="list-style-type: none"> ●教師が公園で撮った写真を使って、写真のクイズを行う。 ●グループで答えを探す。 ●写真に写っている様子をまねしたり、言葉で説明したりする。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ゲームは難しかったよ。いっぱい移動したよ。ゲームでいろんなところへ行ったり、いろんなものが見られてうれしかったよ。」 ○「どこの写真か、なかなかわからなかったけれど、いろんな場所に行ったりして、だんだんまわりの様子がわかってきました。」 ○「全問正解を目指してがんばるぞ。」と言って時間ぎりぎりまで答えを探し回っていた。 ○公園からの帰り道、「これカオに見えないかな。」(店の看板)、「おもしろいモノがあったよ。」(橋のアーチ)などのように周りの様子に興味を持ち始めた。
2時間	校 内	<ul style="list-style-type: none"> ●6人でグループをつくり、校内にひそんでいるカオに見える部分を探し、写真に撮る。 	 <p>△ライトが目みただね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校舎内は壁、窓、天井、ドア、黒板などを、校舎外は木や石などの自然物、遊具などから目、鼻、口を探すために、物に近づいたり離れたり、角度を変えたりしてみていた。  <p>天井にもかおがあるよ▷</p>
1時間	教 室	<ul style="list-style-type: none"> ●撮ってきた写真を作品に仕上げる。 ●作品名をつけ、写真のPRポイントを書く。 	 <p>△目と口がぐるぐるでおもしろいよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○カオをラジカセ、とび箱、マット、水道、掲示物、マンホールのふた、木などから探してきた。 ○マットが積んである様子を見つけた子どもは、マットが丸めてあるところが目と口に見えて、「目と口がぐるぐるでおもしろい。おどろいているみたいだ。」と、トイレの水道をカオにした子どもは、「あくびをしているみたいでおもしろい。」と、想像力を働かせて様々な表情のカオに見立てていた。
1時間	教 室	<ul style="list-style-type: none"> ●各自のおもしろいカオの作品を持ち寄り、グループの代表作品を決めて作品を作る。 <p>このカオはどんなこと▽しゃべっているかな</p> <p>まわりにもようをつけた方がいいね▷</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ○班長を中心に作品の構図(枠、かざり、ふきだしなど)について話し合ったり、周りに色を塗ったり、飾りを描く人、PRコメントを書く人などの役割分担を決めて、協力しながら作業を進めた。 ○代表作品の選出で迷っているグループには、見る人が想像力を働かすことができる作品を選ぶとよいと、声がけをしたところ、グループの作品をもう一度見直して相談していた。

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	教室の前の廊下	<ul style="list-style-type: none"> ●各グループの代表作品を掲示し、「おもしろカオ No.1」を投票で決める。 (表彰は後日の学年集会の場で行う。) 		<ul style="list-style-type: none"> ○各作品のカオのおもしろさを探そうと、写真を見たり、コメントを読んだりして投票していた。 ○「やさしいカオがコアアみたいだね。」のようにコアアに共感したり、「鼻がおもしろい。」は、バイクの正面を鼻に見立てていた。 ○その他のグループに対するコメントは、「困ったカオをしている。」「口を大きく開けているのがよい。」「鼻水を食べているところがいい。」「ベロが出ていて、ペコちゃんみたい。」のようであった。
1時間	学 区	<ul style="list-style-type: none"> ●各学級が担当する地区に出かけ、地区内でおもしろそうなモノを探す。 ●見つけたモノの表面や一部の写真を撮る。全体がわかる写真も撮る。 ●場所を地図に記録する。 	 <p>△この模様をうつしてみようかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○建物、田や畑、ビニールハウス、公園の遊具、木などまちを構成する素材のよさやおもしろさをポイントに探した。 ○「先生に聞いてみたら、『たてや横にしてみたり、上や下から写真を撮ってみるといいよ。』と教えてくれたので、その通りにやってみたら、UFO みたいな写真が撮れて楽しくなりました。」 <p>◀ざらざらした感じがおもしろいね</p>
1時間	教 室	<ul style="list-style-type: none"> ●撮影した写真をもとに、写真が何であるか、クイズを作成する。 	 <p>△どんなヒントにするといいかな</p> <p>◀なかなかうまくできたね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○おもしろさや驚きのあるもの、形や色、写真の向きなどを選ぶポイントにして、撮った写真の中からクイズを作った。 ○写真に興味をもってもらえるように、写真の特徴や様子をヒントにして、グループで考えた。
1時間	教室の前の廊下・教室	<ul style="list-style-type: none"> ●各グループのクイズを見て、どんなものなのか考え、答えを確かめる。 ●学習のふりかえりを行う。 	 <p>△なんだが見たことある気がするんだけど、どこだったかな</p> <p>△この写真だったんだね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「これはなんだろう。」「どこにあるのだろう。」などのように答えを考え、答えがわかると「あっ、わかった。」と言って、友だちに教えたりしていた。 ○「こま犬の足の一部分だけを写したところがよい。」「木がいろいろ組み合わせさせて不思議な形をしていた。」など、おもしろさに気づいていた。 ○「横やたて、下から見ていくと、たくさんあるからすごいと思いました。身の回りにこんなものがあるんだなと感心しました。」や「たんけんに出かけて、デジカメでいろいろな写真を撮ってみたいです。」などのように、まちを構成するものに目が向いたり、新しいものを見つけてみたいという意欲が高まった。

児童の作品

◎校内で見つけたカオに名前を付け、PR ポイントを書き添えました



「お昼ねしているカオ」
ぼうっとしてねむたそうなカオだよ。明るい光は光っていて、夜は明かりがなくてくらいから、明るいのとくらべて見るとこわそうだよ。



「いつまでもわらいつづけるカバ」
体育館で使う音の出る機械をま上から見ました。カバが大きな口をあけてわらっているよ。わたしは、ワッハッハーとわらっているように聞こえるよ。みんなは何て聞こえているのかな。

◎校内で見つけたカオに吹き出しをつけて作品を作りました



へんてこがお



外国人の顔

◎まちに出ておもしろいものの写真を撮りました



消火栓のふたに
花がさいているよ



とりのいしめなわを
下からうつしたよ

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 景観の中にはさまざまな表情があることや、モノや素材のよさやおもしろさに気づかせるために、遠足を利用して、写真のクイズに答えるという動機付けを行った。
- 6人グループに1台のカメラを用意し、子どもが順番に写真を撮ることができるように時間を確保したことで、子どもたち一人ひとりに写真をとる機会を与えることができた。
- 子どもたちが、カメラで撮影する技能を習得する時間を確保した。
- グループを自由に活動させるのに十分な引率者の確保が難しい。

【児童の反応】

- 「デジタルカメラが使えるようになったので、虫がえさを食べているようすを撮ってみたいです。」のように、新しく使えるようになった機器を学習へ取り込んでいこうとする意欲も芽生えた。

- 身の回りの風景に関心を持つようになったり、新しいものを見つけてみたいという意欲が高まった。
- 子どもたちは作品を見たりコメントを読んだりして、作品のおもしろさを感じ取っていった。発表会を開けば、作成者から探すときの視点や見つけたときの感動、作品に対する思いなどを直接聞くことができ、新しい見方や体験の共有をはかることができる。

【教師の変化】

- 地域を何回も歩いてみたので、地域を知るきっかけになったり、新しい発見があった。
- デジタルカメラが使えるようになったことで、季節による自然の移り変わりや町の様子を写し出したり記録したりする学習が計画できるようになった。
- 校区の様子や地図の見方などの社会科で学習した成果は、景観まちづくり学習でも生かすことができる。

関連情報

●内容を継続・発展させて、2学期以降も授業に取り組みました

【活動名】ぼくの町・わたしの町・みてみて小坂井

- ◆ 9～11月：自分が住んでいる町の景観を構成する要素やものの見方から各自でテーマを決め、グループで校区内の4箇所に出かけ、カメラでいろいろな角度から写真撮影を行った。
- ◆ 12月：撮影した写真の中から、写真集に載せる写真を12～14枚選び、デザインやレイアウトを考えて、写真集の下書きを考えた。
- ◆ 1月：写真集を制作し、学校祭（小西祭り）で展示した。



制作した写真集を学校祭で展示しました!

20

長野県 長野市立後町小学校

- 実施学年 : 3年
- 児童数 : 9人 (1学級)
- 実施教科等 : 総合学習・国語
- 実施時間数 : 17時間

実施 / 参照
プログラム

- No.02 これはどこだ? 探してみようまちパーツ
- No.07 看板からまちの風景を考える
- No.08 わたしたちのまちに言葉の贈りもの



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

●七清水探検や頼朝薪拾いをして、地域の自然や文化にふれ、更に探検学習を深めたいと願っている子どもたちが、中央通りの白地図作りの完成をめざし、繰り返し、中央通りに足を運び自分の目で見たり、地域の人と触れあったりすることを通して、自分達の町が、「善光寺がある町」という理解だけでなく、「面白いなあ、きれいだなあ」と感じるものや、自分たちの知らないものが、まだまだたくさんあることに気づくことができる。また、一人ひとりがお店（商品や景観）やその他の物により興味をいただき「もっと知りたい」と思う人・物・ことに出会うことができる。

学習活動

1. 知っているようで、知らない中央通りを、みんなで歩いてみる。
2. 不思議だ・おもしろいと感じたことを発表し合う。
3. みんなで町探検をしよう!にむけて、事前の準備をする。
4. 町探検に出る。
5. 探検の発表をする。白地図を作る。
6. 白地図を見ての疑問点・課題、視点を確認しあい、再度町探検に出る。
7. みんなで、白地図へ書き込む。一人ひとりが見つけた面白いものの発表準備をする。
8. 「面白いもの見つけた」の発表会を開く。

準備品

- 白地図
- デジタルカメラ

実施場所

- 中央通り（学区内）
- 教室

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	中央通り	<ul style="list-style-type: none"> ●知っているようで、知らない中央通りを、みんなで歩いてみた。 	 <p>△この店きれいだな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「先生。あれなあに」「何だろうね」 ○「ここが〇〇君たちがずんでいるマンションなんだ。初めて来たよ。」 ○「ここは、〇〇ちゃんちのお店だね。」
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●不思議だ・おもしろいと感じたことを発表し合った。 <p>「ぼくは、ガラスごしに、おそばをうっている人を見ることができました。上手だった」 ▶</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○「〇〇ちゃんがみつけた物、わたしもみてみたい。」 ○「みんなで見つけたもの（発見）が分かるように（共有できるように）、白地図にまとめたらいね。」
0.5時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●町探検に向けて、事前の準備をした。 <ul style="list-style-type: none"> ・中央通りを6ブロックに分ける ・3人ずつの3グループを作る ・1グループが2ブロックを担当することになり、どのグループがどのブロックを探検して報告するかを分担する 		
3時間	中央通り	<ul style="list-style-type: none"> ●町探検に出た。 ●白地図にまとめきれず、もう一度町探検に出ることになる。その際の注意点を確かめ合った。 ●町探検にもう一度出る。  	<ul style="list-style-type: none"> ○メモをしながら帰ってきた子どもたちだったが、いざ、白地図と向かい合うと、作業が進まない。「自分たちのメモが、字がていねいでないこと」「メモの順序性がいまいであること」が主な原因であった。 ○「先生。もう一度やり直していい。」という声があがり、その方向で話し合いが進んだ。 ○みんなでメモを確かめ合いながら探検が出来た。 	
3時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●探検の発表をした。 ●お店の種類・並び順を白地図に書き込む。 		<ul style="list-style-type: none"> ○帰校後、今回はスムーズに白地図づくりに取り組めた。 ○白地図を作りながら、色分けした方が、見やすいと気づいた子どもたちは、二個以上出てくる同じ種類の店には、同色で色を塗ることにした。

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●白地図を見て、気付いたこと・疑問を出し合う。 ●次の共通課題が見つかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・一番古いお店は、どこのお店だろう ・お店の宝物が知りたいな ・何で「そばや」(和がしや) 等が多いんだろう ●お店の人に質問するときのマナーを確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「おそばやさんが、たくさんある」、「空きや(改装中もふくむ)が多い」、「駐車場が多い」、「和がし屋さんが多い」、「旅館があった。銀行が多い」、「歴史的なものがあつた」、「道にそつて、木が植えてある」、「信号をわたるとき、音楽がなるところがあつた」などに気づいた。
2時間	中央通り	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決に向けて、町探検に出た。 ●自分たちの課題を解決するためのインタビューを行う。 ●「おもしろいものみつけたよ」の材料をメモしたり、デジタルカメラに撮る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちは「200年前からこの場所にあるんだよ」の答に「それって、いつ」と聞き返した。「すごーい」という反応を示した。 ○お店の宝物は、これだよといって、特別に品物を見せていただいたグループは、早くみんなに報告したくてわくわくしていた。 ○熱心にメモをとっていた。
4時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●調べたことをみんなで聞きあい、まとめた。 ●「おもしろいものみつけた」の発表に向け、準備を進めた。 	 <p>△PCでまとめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の撮つた画像をみることで、くわしく伝える言葉を付け足すことができた。
1.5時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●発表会「おもしろいものみつけたよ」を行う。 ●児童の発表を行い、発表後に白地図の上で場所を確認する。 ●その後、教師が見つけた「中央通りベスト10」を発表する。 	 <p>△「わたしのみつけたおもしろいものは～」</p>  <p>△白地図に書きこもう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちの発表を聞き、「あつた。あつた」や「すごいみつけたね」と関心をもって聞き合うつづやきがたくさん聞かれる。 ○白地図での作業場面では、「〇〇ちゃんのここにあつたんだ。今度行つてみよう」と笑顔で話す子の姿があつた。 ○教師の発表では、屋根上のハトを提示したところ、これに気づいていなかった多くの子たちから「本物が見たい。今すぐ行きたい」「気づかなかつた物がまだありそうだ」という声がたくさんあがつた。

児童の作品

◎町で見つけた「おもしろいもの」の写真撮影し、紹介する文章を書きました



へんなライオンのような物
ぼくはへんなライオンのようなおき物を見つけた。歩いていたら、ぼくがほかに、いろんなかざりがありました。ちよんまげをつけた人のおき物もありました。ライオンは二つありました。でも、同じものなので、一つだけとりました。目を見てみると青いビーダマでできていました。本当のライオンみたいに、目が光りそうでした。体ぜん体には、いろいろなせんがありました。そのせんは赤色でした。つにもせんがありました。それでは、そこが気に入っていました。あと、きばもついていました。そのおきものは木でできていました。

ある場所は、ベットシヨップの近くのちゆう車場のとなりにあります。ぜひ、見てください。

ぼくは、見たどうそじんには、カギがしまっている。つのは、カギがしまっている。どうそじんの高さは、ぼくのしんちようより高く、形は、細長い形です。場所は、学校の近くの八十二銀行の上について五月人形と北野文げいざのころの間にあります。こんなところにあるのがふしぎでした。見てください。



北野文げいざと五月人形の間のどうそじん

ぼくは、北野文げいざとごがつにんぎようのあいだにあるどうそじんを見つけてきました。歩いてみると、きたのぶんげいざと五月人形のすきまにかみ様のおはかがあって、びつくりしました。よく見ると、どうそじんでした。



ビー玉がついているはしら
ぼくは、ビー玉がついている家のはしらを見つけた。歩いてきたとき、かべにビー玉があつてびつくりしました。よく見ると、家のはしらでした。ふつうの家のはしらは、何もついていませんが、ぼくが見た家のはしらは、青と白のビー玉がいつぱいつぱいしていました。ぼくは、青と白の組み合わせがきれいで、とても気に入りました。

ビー玉のついてはしらは、ぼくのせより高くて長方形をしています。はしらについているビー玉の中に入っている物がちがいます。ビー玉の近くには、ビー玉はまわらない穴があります。ぼくは、「どうしてビー玉が入っていないのかなあ。」と思いました。ビー玉のついてはしらは、かんでんぱから、ふじや旅館に行く中があります。かんでんぱの前の信号をわたり、歩道をまっすぐ進みます。ふじや旅館の下の下にあります。みなさんも、ふじや旅館の近くへ行くときは、見てください。

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 対象学年が中学年（3年生）であったこと、子どもの主体性を大切にすること、の2点を考慮した。そのため、教師側から「看板」という視点を持ち出さず、子どもたちが町探検をする中から、「看板」に目に向くことを期待した学習構想を用意した。子どもたちは、「自分たちの町の中央通りを探検しよう」という共通の願いから出発した。
- 初めての町探検から、限られたものにしか目が向かない児童の実態が把握できた。そこで、立地条件を生かし、くり返し中央通りに足を運ぶようにした。
- 「おもしろいものみつけた」という国語の単元を総合の時間の中に取り入れながら学習を展開した結果、子どもたちの中に、「何か友達をおどろかすような発見をして報告したい」という願いがすわり、意欲化が図られた。
- 子どもは、カメラのファインダーをのぞきこむことで、自然とふだんとは異なる方向に視線を向けるようである。デジカメを持たせたことは視野を広げる上で有効であった。

【児童の反応】

- 中央通りに出かけて、各商店で対応してくれるおじいさん・おばあさんとの会話をとても楽しむことができた。「中央通りは昔、道はばがせまくてね」のように、今後の学習に役立つ話もいただけた。
- 景観という視点では、子どもたちの興味は、商業看板に向かうことが多かった。後付として、伝統的な看板を教師から紹介する機会をもつと、「へー。初めて知った」という感じで、今までに関心が向いていなかったことがうかがわれる反応であった。また、紹介されたことで、「実物が見たい」という意欲も高まった。

【教師の変化】

- 活動を通して、教師自身の看板というもののとらえが変容した。まちの中には、古式豊かな格式ある看板だけでなく、商業看板が多数あり、実に、効果的に子どもたちの視線を止めている。教師のイメージと児童のイメージの違いを理解して活動を仕組むことの必要性を体感した。今後、いかに必然性をもたせながら、教師側の願う視点へ児童の視点をつなげていくかが課題である。

21

愛知県 碧南市立大浜小学校

- 実施学年 : 6年
- 児童数 : 98人(3学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 35時間

実施 / 参照
プログラム

No.06 塀もまちの景観の一部

No.09 思い出いっぱいわたしたちのみち



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 寺、港のある大浜を探検し、地域やまちの景観の良さに気づく。
- 良好な景観を作り育てていくには、どうしたらよいかを考え、一人ひとりができることに取り組んでいく。
- 「大浜てらまちウォーキング」で地域の方に発表する。

学習活動

- 大浜にある寺、港、蔵、路地の景観について調べる。
- 気に入った景観について、個人追求をする。
- グループに分かれ、発表のための準備をする。
- 「大浜てらまちウォーキング」で、他の児童、保護者、地域の人に寺、港、蔵、路地のある特色ある景観の良さを伝える。

準備品

- デジタルカメラ
- 色画用紙

実施場所

- 大浜街道周辺、漁港、蔵、路地
- 称名寺、本伝寺、海徳寺、宝珠寺、西方寺、林泉寺
- 教室
- 体育館

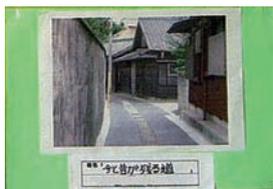
学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
15時間	大浜街道 周辺、 漁港、蔵、 路地 ・称名寺 ・本伝寺 ・海徳寺 ・宝珠寺 ・西方寺 ・林泉寺	<ul style="list-style-type: none"> ●大浜街道周辺を3区域に分け各クラスで探検し、寺、港、蔵、路地の景観について調べた。 <ul style="list-style-type: none"> ・住職さんから称名寺と徳川家との関係について話を聞いた。 ・林泉寺では座禅体験をした。 ・探検途中にしらす干し作りの様子を見学することができた。 	 <p>△まち探検（商店街）</p>  <p>△お庫裏さんから話を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○見慣れたところでも、写真を撮るために注意して見ると、新しい発見が出来てよかった。 ○歴史ある寺が多いことに気づいた。 ○暑い中、汗を流しながら、しらす干しの作業をしている人達を見て感動した。
3時間	学校内 各探検場所	<ul style="list-style-type: none"> ●学年全体で市の都市計画課の方から「景色って何？」という題で講話を聞いた。 ●再度、大浜街道周辺を各クラスで探検し、デジタルカメラで気に入った場所の写真を撮った。気に入った景観について個人追求をした。 <ul style="list-style-type: none"> ・本で調べる。 ・再度見学して話を聞く。 ・地域の人や祖父母に聞くなどの調べ学習を行った。 	  <p>△気に入った場所の写真撮影</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○景色には自然、歴史、暮らし、産業の要素が含まれていることが分かった。看板も景色の一つなんだ。 ○大浜漁港にある赤いレンガ造りの元冷凍冷蔵庫はいつ建てられたか祖母に聞いた。 ○堺に木でできた古いうどん屋の看板があった。奥に新しい看板をつけた製麺工場を見つけた。
2時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●写真を並べて、美しいまち並み自分が歩いてみたいまち並みを紹介する準備をした。 ○写真を色画用紙にはり、題名をつけた（「大イチョウ」「今と昔が残る道」「まよけ」「十王堂」など）。 	 <p>△美しいまち並みを紹介する準備</p>  <p>△写真を色画用紙に貼って掲示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大浜漁港の北には赤いレンガの元冷凍冷蔵庫がある。向こうには称名寺の屋根瓦が見える。 ○白壁の路地を通って行くと、本伝寺のイチョウの木が見える。
2時間	教室	<ul style="list-style-type: none"> ●「こんな大浜のまちが好き」というテーマで、自分の作品を使って学級発表会を開いた。 <ul style="list-style-type: none"> ・題名について ・この道を歩いてみたい理由 ・残しておきたいまち並みも発表した 	 <p>△学級発表会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発表を聞いて、ふだんはあまり気にしていなかったけれど、よく見ると大浜にはたくさん景観のいい所があることが分かった。

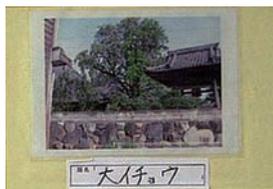
場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
<p style="text-align: center;">2 時間</p> <p>教室 体育館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなで作品のどんなところが良かったか意見を出し合った。 <ul style="list-style-type: none"> ・「元冷凍冷蔵庫」 ・「草むらの中の古い井戸」 ・「しらす干し作り」 	 <p>△どの作品がよいか意見交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大正時代に建てられた元冷凍冷蔵庫は地震が来たらくずれてしまいそうだ。残すにはどうしたらいいのか。 ○「大小スキル」（話し方や聞き方、発表の仕方等を学習する大浜小学校独自の教材）を使って、発表に取り組んでいた。
<p style="text-align: center;">11 時間</p> <p>教室 体育館 各発表場所 ・称名寺 ・海徳寺 ・西方寺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●5、6人のグループに分かれ「大浜てらまちウォーキング」の発表の準備に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・B紙や寸劇、クイズなどを組み合わせ、聞いて分かりやすく楽しめる発表方法を考えた。 ＜1組では＞ <ul style="list-style-type: none"> ・寺の発表グループ4 ・景観の発表グループ2 題名 「大浜景色めぐりツアー」 「大浜写真展」 ●校内発表会で、全校児童の前で発表した。 <ul style="list-style-type: none"> 1組 「大浜景色めぐりツアー」 「大浜写真展」 2組 「大浜の残したい風景」 「景観とは景色？」 3組 「けしき探検隊」 ●「大浜てらまちウォーキング」で他の児童、保護者、地域の人に特色ある景観の良さを伝えることができた。 <ul style="list-style-type: none"> 1組 「大浜景色めぐりツアー」 「大浜写真展」 2組 「大浜の残したい風景」 「景観とは景色？」 3組 「けしき探検隊」 	 <p>△「大浜てらまちウォーキング」に向けて台本づくり</p>  <p>△「大浜景色めぐりツアー」</p>  <p>△「大浜写真展」</p>  <p>△「大浜の残したい風景」</p>  <p>△「けしき探検隊」</p>	＜1組では＞ <ul style="list-style-type: none"> ○写真を景観にみたくて景色めぐりツアーの台本を書き、寸劇や発表の練習に取り組んだ。 ○写真館の店員がニュース番組のレポーターの質問に答える発表形式にすることに決まった。 ＜2組では＞ <ul style="list-style-type: none"> ○写真を1枚ずつ見せながら説明をしたり、残しておきたい理由を発表した。発表後、掲示板に写真を貼り、一目で分かるように工夫した。 ＜3組では＞ <ul style="list-style-type: none"> ○景色を自然、歴史、生活、仕事の4つに分けて発表した。紙芝居を作ったり、クイズを出すなど工夫して取り組んだ。

児童の作品

◎気に入った写真を色画用紙に貼って作品を作りました～こんな大浜のまちが大好き～



△「今と昔が残る道」



△「大イチョウ」



△「すずしげな東照宮」



△「十王堂」

◎発表会に向けてクラスで作品を作りました



△「大浜景色めぐりツアー」



△「大浜の残したい風景」



△「大浜写真展」



△「けしき探検隊」

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 写真に撮って気に入った景観を発表するとき、そこに暮らす人たちの思い出も聞き取り、発表に利用した。現地では、親しみをもって話を聞くことができた。
- 1学期のまち探検では、手当たり次第に写真を撮る子がいた。しかし、市の都市計画課の方から景観には4つの要素があるという話を聞いてからは、まち全体を見て対象を選んで写真が撮れるようになった。
- 大浜学区内には「大浜地区歩いて暮らせる街づくり」エリアがあるので、いろいろな景観に子どもたちは気づいていると思ったが、歩いてみると予想とは異なり、新たに発見をする場面が数多くあった。
- まち探検をし、気に入った景観の中に、神社・寺などの塀が入っていることに子どもたちが気づくことができた。景観の中の塀の存在の大切さについて考えることができた。
- 「大浜てらまちウォーキング」で保護者、地域の人に、特色ある景観の良さを伝えることを目標に取り組むことができた。

【児童の反応】

- なにげなく目にしているまちを何度も歩いて、歴史ある寺や建物、自分が写真に撮った場所が大人になっても残って欲しいと、地区に愛着を持つようになってきた。

【教師の変化】

- 大浜の景観の良さに改めて気づくと同時に、良好な景観を守っていくにはどうしたらよいか考えるようになった。
- 良好な景観を守り育てていくには、子どもたち一人ひとりの力以外にどのようなことが可能なのか、子どもたちと共に考えていきたい。

22

北海道 北海道教育大学附属函館小学校

- 実施学年 : 5年
- 児童数 : 80人(2学級)
- 実施教科等 : 総合学習
- 実施時間数 : 16時間

実施 / 参照
プログラム

- No. 05 地域カルタをつくろう
- No. 10 校歌の風景を見つめてみよう
- No. 11 地域景観プランナーになろう



学習のねらい・学習活動・準備品・実施場所

学習のねらい

- 目的・見通しをもって追求しつづける研修活動や体験活動を通して、郷土函館の景観の素晴らしさに気付くとともに理解を深めることができるようにする。

学習活動

- 本題材は、函館市の景観に対する子どもたちの興味・関心を引き出すとともに、その背景にある歴史や文化、観光、産業などに目を向けることができるものである。子どもたちが函館市の素晴らしさを見つけるために函館散策をする中で、まちの景観を構成する建造物や自然物に着目し、普段は意識することのない函館のよさまでも発見しようとするにつながる。本題材の学習を通して、自分の住むまちに対する愛着を深めることができると考えられる。

準備品

- 函館市マップ、観光資料（研修先やコースの選定のため）
- デジタルカメラ12台（研修先における記録写真の撮影のため）

実施場所

- 小学校
- 函館市内

学習の流れ

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
1時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●自主研修の「めあて」 についての話し合い ●個人の自主研修先の決定 		<ul style="list-style-type: none"> ○普段何気なく見ているものから、函館の素晴らしさを見つめられるかもしれないという期待が大きかった。
1時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●グループ編成 ●グループで散策コースの検討 		<ul style="list-style-type: none"> ○個々の一番行きたい所にこだわりをもっている様子であった。 ○互に行きたい所を調整し、グループを編成していた。
1時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●報告会の見通しをもつ →景観に着目する意識付け 		<ul style="list-style-type: none"> ○クイズやカルタ形式の報告会をすることで、報告を受ける人も楽しむことができることに気付いていた。
4時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●研修先やコースの事前調査 ●クイズやカルタの題材になりそうなものを事前把握 ●研修先について、どんな情報を得て、何を見たり聞いたりしたいかの明確化 	  	<ul style="list-style-type: none"> ○研修先について資料が少ないことに気づき、情報コーナーで資料を共有する必要があることに気付いた。 ○情報コーナーを大いに活用し、情報を共有するメリットに気付いていた。コースの途中にあるもの（例：日本最古の電柱（にまで目を向け、研修コースを充実させていた。 ○観光マップや研修先のパンフレット、インターネットなどの情報から、自分たちの知りたいことや見てきたいこと（記録したいこと）に期待感を抱いていた。

	場 所	概 要	活動記録	対象者の反応
4時間	函館市内	<ul style="list-style-type: none"> ●研修コースで見つけた素晴らしい景観の記録（写真撮影） ●研修先での取材（建造物の歴史や意味などの把握）や記録（写真撮影） 	 	<p>○普段は何気なく見ていただけということに気づき、新たな発見の喜びを実感した。また、歴史ある建造物をそのまま保存したり活用したりしていることがわかったことが、友達などに伝えたいという思いに現れていた。</p>
2時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●報告内容に合わせた記録写真の選択 ●報告会に向けたクイズやカルタの問題作成 ●問題の解説作成 		<p>○函館の景観を撮った写真を基に、どのようなクイズにしたら自分たちの発見が伝わるかを真剣に考えていた。</p>
1時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●報告会の流れの確認 ●カルタやクイズのシミュレーション 		<p>○互いに発表する側、参加する側に分かれて、クイズの内容や出し方をどう工夫するかを話し合っていた。</p>
1時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●第4学年児童対象の報告会（クイズやカルタ形式） 	 	<p>○これまでのポスターセッションのような発表と違い、クイズにしたことにより、4年生の反応もよく、自分たちの発見をしっかりと伝えることができたことを喜んでいた。</p>
1時間	北海道教育 大学附属 函館小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●報告会のふり返り 		<p>○自分たちが発見した函館の景観の素晴らしさを伝えられたことに満足感をもっていた。さらに、自主研修を手伝ってくれた保護者にも、自分たちの発見を伝えたいという思いが発言に表れていた。</p>

児童の作品

◎学習の成果を元に、クイズ形式で発表会を行いました (児童が作成したクイズの例)

①シーポートプラザにある摩周丸と外灯 ～海や船に合わせた外灯の色づかいに着目～



【3択クイズ】この船の名前の由来は何でしょう？

- A マシユマロ
- B 摩周山
- C 摩周湖

【解答・解説】正解は「C 摩周湖」。

この船の名前の由来は、摩周湖です。連絡船は湖や山の名前をもとに名付けたものが多いのです。また、摩周丸の色に合わせたような色遣いの街灯がありました。

②茶屋処 ～西洋風建物にある和風喫茶、昔の建造物を生かした店に着目～



【3択クイズ】この建物は、次のうちどれでしょう？

- A 民家
- B 喫茶店
- C 旅館

【解答・解説】正解は「B 喫茶店」。

この建物は「旧茶屋亭」という茶房です。この建物は、造りが昔風なので、歴史的建造物に選ばれました。

③大三坂 ～函館にある有名な坂の一つ～

【3択クイズ】この中で、「大三坂」はどれでしょう？



A



B



C

【解答・解説】

正解はAです。この「大三坂」は、三つの坂の中でも、わりと細く、しかもひっそりとしたところにあります。ちなみに、Bは「二十間坂」、Cは「八幡坂」です。

先生の声

【実施にあたり工夫した点・苦労した点】

- 宿泊学習の自主研修を「取材の場」としたため、子どもたちが目的意識を明確にもって、活動を展開することができた。
- 発見した景観をクイズ形式でまとめることにより、報告会が発表者からの一方的なものではなく、参加型にすることができた。このクイズを意識させたことによって、子どもたちの発見も、建物だけにとどまらず、電柱や街灯、壁面などへ、ひろがりを生じさせることができた。
- 記録写真用のカメラを確保するのが大変だった。

【児童の反応】

- 報告会での4年生の反応がよく、発表した5年生の満足度が高かった。

【教師の変化】

- 今回の取組の中で、これまで、毎年行われてきた自主研修の報告会の形を見直すきっかけとなった。子どもたちが、自主研修で着目する点についても明確にすることができ、授業者としても学習を進めやすいというメリットを感じた。